アタゴオルは猫の森 15

ATAGOAL is Cat's Forest

ますむら・ひろし



MFコミックス フラッパーシリーズ

アタゴオルは猫の森 15 ますむら・ひろし

MEDIA FACTORY

ISBN978-4-8401-2968-8
C9979 ¥514E

9784840129688

1929979005146

定価：本体514円（税別）
雑誌52648-68
メディアファクトリー

生食いされた父の敵とヒデヨシを狙う子ダコ、
なんか違うギルバルスやテンプラたち…
ここはいつものアタゴオルとは異なる世界？
大好評の夢シリーズ『海ノ王様』はじめ
魅惑と幻想に溢れた8篇と
ビートルズや忌野清志郎への想いを綴った
著者作品解説『アタゴオル余波』を収録。



ますむら・ひろし

昭和27年生まれ
昭和48年、第5回手塚賞
準入選作『霧にむせぶ夜』で
『週刊少年ジャンプ』にてデビュー。
青林堂に入り『ガロ』で活躍し、
その後も『アタゴオル』をはじめ
次々と作品を各誌で発表する。
平成9年には『アタゴオル玉手箱』で
日本漫画家協会賞大賞受賞。
宮沢賢治作品の漫画化にも取り組み、
『銀河鉄道の夜』が劇場アニメとして
昭和60年に公開され話題を呼んだ。
現在『月刊コミックフラッパー』にて
『アタゴオルは猫の森』を連載中。
平成18年10月『アタゴオルは猫の森』が
劇場アニメとして公開された。

装画・ますむら・ひろし
装幀・多田和博＋岡田ひとみ
フォーマットデザイン・フィールドワーク

アタゴオルは猫の森 15

ますむら・ひろし

ATAGOAL is Cat's Forest



MFコミックス
フラッパーシリーズ

アタゴオルは猫の森 15

ますむら・ひろし

MEDIA FACTORY

ISBN978-4-8401-2968-8
C9979 ¥514E
9784840129688
1929979005146
定価：本体514円（税別）
雑誌52648-68
メディアファクトリー
MEDIA FACTORY



生食いされた父の敵とヒデヨシを狙う子ダコ、
なんか違うギルバルスやテンプラたち…
ここはいつものアタゴオルとは異なる世界？
大好評の夢シリーズ『海ノ王様』はじめ
魅惑と幻想に溢れた8篇と
ビートルズや忌野清志郎への想いを綴った
著者作品解説『アタゴオル余波』を収録。

ATAGOAL is Cat's Forest

アタゴオルは猫の森 ⑮

ますむら・ひろし



アタゴオルは猫の森 15

ATAGOAL is Cat's Forest

第1話 ミンミン・フミンミン1……3
第2話 ミンミン・フミンミン2……27
第3話 ミンミン・フミンミン3……51
第4話 ミンミン・フミンミン4……75
第5話 暑イノヨオ……99
第6話 海ノ王様……123
第7話 ネンドン［前編］……147
第8話 ネンドン［後編］……171
アタゴオル余波15……196

第一話　ミンミン・フミンミン①




おやっ
テンプラ君と…パンツ君だな
は？
お前たちスミレ博士の下僕だべ
下僕!!
オレ 南のパギリアンペから来たヌメチャつーもんだが
これが風に乗って飛んできてよ


飛行空豆だな
「不可能の無い男 天才学者 アタゴオルの スミレ博士」
「紅マグロ2本で なんでもやります」
「空も飛べるし 火山だって 噴火できますよ」
こんなもん まいて…
アタゴオルの恥の 拡散だな
それでどんな 願いごとを?
それは 秘密 だす
秘密もいいですが アイツの言ってることは みんなホラですよ



ホラ!!
そうです お気の毒ですが
ダメだダメだっ とにかく博士に会わせてけろ
変だなあ アイツの住所
空豆には「ペッタラ岩の南」とあるよな
んっ
「スミレ博士研究所」!!


いつの間にこんなもの建てたんだ
酒ビンだらけだ
ごめん下せえスミレ博士いるかーい
いらっしゃい
どんな願いでもかなえましょーっ
で
どんなお頼みかな？
山を大噴火させてけろい
えっ



よろしいっ
噴かせましょう
大噴火
させましょーっ
ホント
ですか
こら
いいかげんな
ことを言うな
噴火杖は
もうないんだぞ
知っとるわい
紅マグロ2本で
あらゆる山を
噴かせましゅ
して
どんな
山かね？
ミンミン・
フミンミン山っす
えっ それって
死火山だろ



その山
死んだのか？
違うよ
火山であることは
まちがいないが
噴火した記録が
ないほど 古い火山の
ことさ
なーんだ
そげな
寝ぼろけた
爺みたいな山は
ワシが活を
入れてやるわよっ
おお
なんと
たまげた
ことっ
火山が空
飛んでんぞっ


「噴気意丸」と いってなっ ワシが発明した 火山飛行船じゃよ
博士 お前様は 天才だべ
そーよ 超天才 なのだな
完全に だまされてるな
噴くわけ ないだろう
でも やけに 自信あり気 だね
連れて行くのは 助手のヒデ丸 だけなのに
どーして 使えない下僕どもが ついて来るのかねっ
オレたちも 紅マグロ半身で おまえを監視する仕事 引き受けたのさ
ぬあんだとっ
食い意地の きたない奴らじゃ
あっ


ミンミン・フミンミン山だ
きれいな成層型だな
これが死んだふりしてる山かい
死んだふりじゃない2000年以上噴火していないんだ
そんなに長く!!
それじゃあ もう噴火しないでしょう
なーにワシが叩き起こしてやるわい


火口の中も緑でいっぱいだ
煙ひとすじも上っとらんのう
爺火山めっ
2000年の眠りから醒ましてやるぞう
どうせホラロだけでしょうなにか作戦でもあるの？
ほほほテマリ君



ワシがこの山を大噴火させたら…なんとする…そん時は
ワシの奴隷になってもらうぞ
いいよ…
そのかわり噴火しなかったらアンタが奴隷だぞ
よーーし
紅マグロ2本に奴隷女獲得じゃ
ヒデ丸「鳥霧節」の用意
グギッ
へい
鳥霧節？


ニューーッ
あっ
なんだ これは!?
噴気意丸は 時々 飛ぶ力が 弱くなるのですが
そんな時は 鳥霧山の 噴火口に 行って
ザッ
ヒデヨシ君や スミレ博士が 唄うと…
では 「鳥霧節」
ハア〜〜ッ 煙プッと噴きゃ 熔岩ダラリコォ 山のヨダレ〜はぁ 黄金ぴか 熱いーっ


シュ―――ッ
タコも熔けるうし 木も熔けえるう ハア 噴火噴火 イカイカ
あっ
ガタ
ガタ!!
噴気意丸の噴煙が激しくなってきたぞ
ヒデヨシ君の気分が盛り上がると活発になるんです
そして この岩石管が地下に潜む火山の力を吸い上げるのです
あれ 変だなあ
どうした ヒデ丸?


鳥霧山の噴火口でやると
管の中を熱の輝きがドンドン流れてくるのに…
どーじゃ ヒデ丸 吸い上がっとるか
ぜんぜん ダメです
ぜんぜんダメ
どして? ぬあんでだよォ
鳥霧山は活火山だぞっ 噴火口からは噴気も上がっているし
火口の地下には火山の力がたまっているだろう
でも この山は遠い昔に噴火しただけで 火口の地下にはなにもないんだよ
なにもないから なにも吸い上がってこないのか
くぬぬ 老いぼれ火山め


さーどうするっ
降参して私の奴隷になるかっ
ぐっ
誰が降参なんかするもんかっ
断固噴火させてやる
さては他の作戦があるんだな
ワシには歌しかない
心が足りなかった…
むお〜〜っと心をてんこ盛りして唄うのじゃ
聞いた私がバカだった

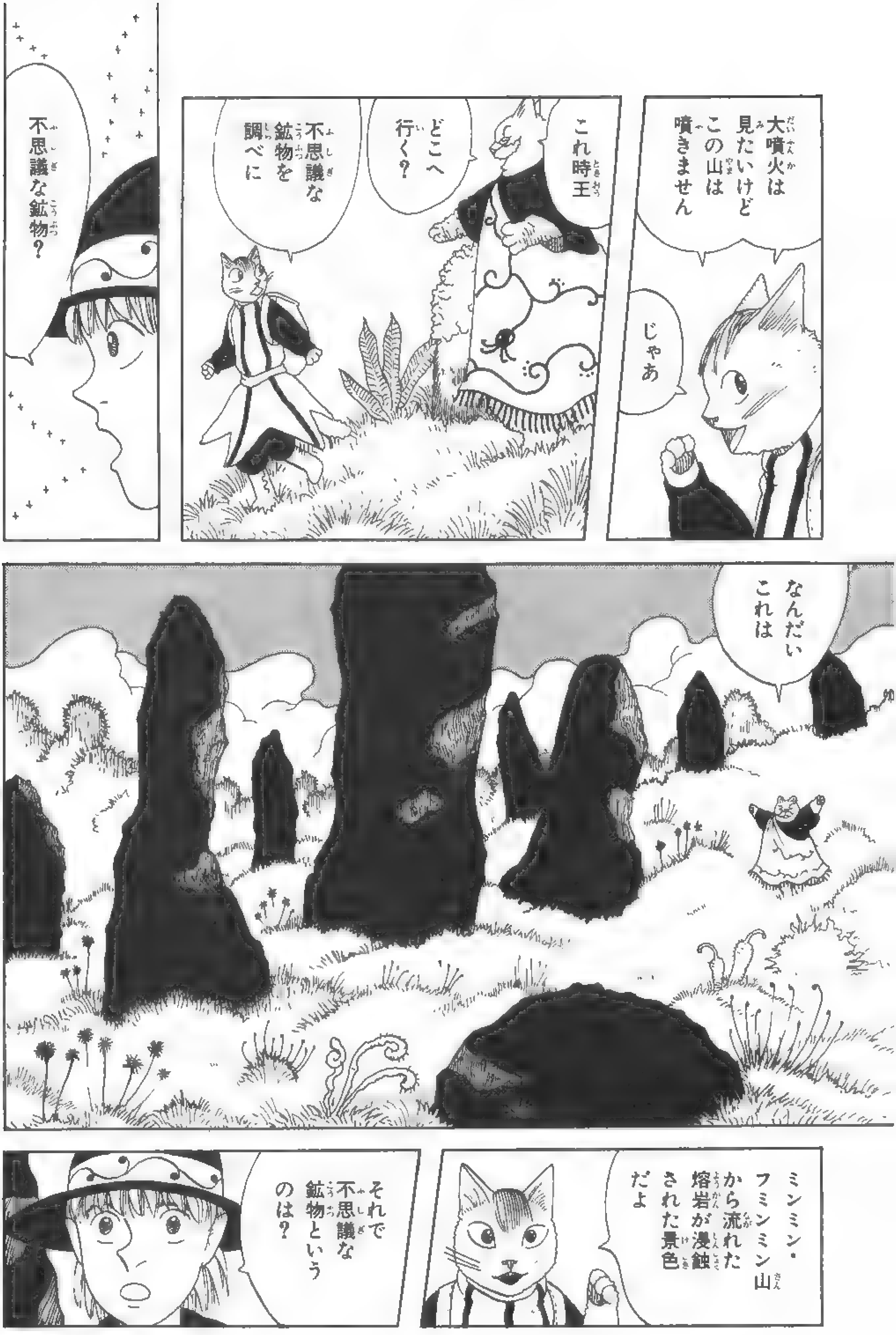

ハア〜〜ッ
煙プッと噴うきゃ
歌で山が噴火したらこの星は火山だらけだろっ
まったく
あれっ？
その声はやっぱり…
ヒデヨシ君のスミレ博士か
らっ
誰だ おまえ？
なに言ってんだ僕だよ時王だよ



トキオー？知らんな
ったく!! ちょっと会わないと忘れるんかい
やあ時王 ひさしぶり
よっ
やあ みなさん どーもっ
鉱物採集か
ええ そうです ……で
みんなは なにをしに？
ドッカーンと
この山を 大噴火させに 来たのさ


噴火!?
ウハハハ
なにがおかしいのだ?
噴火するわけないよ
いいかい
ペタ
…2432…
この岩が山頂から噴き飛んできたのは2432年前だよ
それ以来噴火してないんだ
凄いっ……石を読めるのか


2432年前
ええ
それに噴火するなら
石が知らせるよ
石が知らせる!?
そうです
鉱物の中で騒ぎ出す奴がいるのです
偉いぞ時王
さすがにワシの弟子じゃ
弟子
紅マグロをかじらせるから
大噴火の手助けをしたまえ
ねっねっ



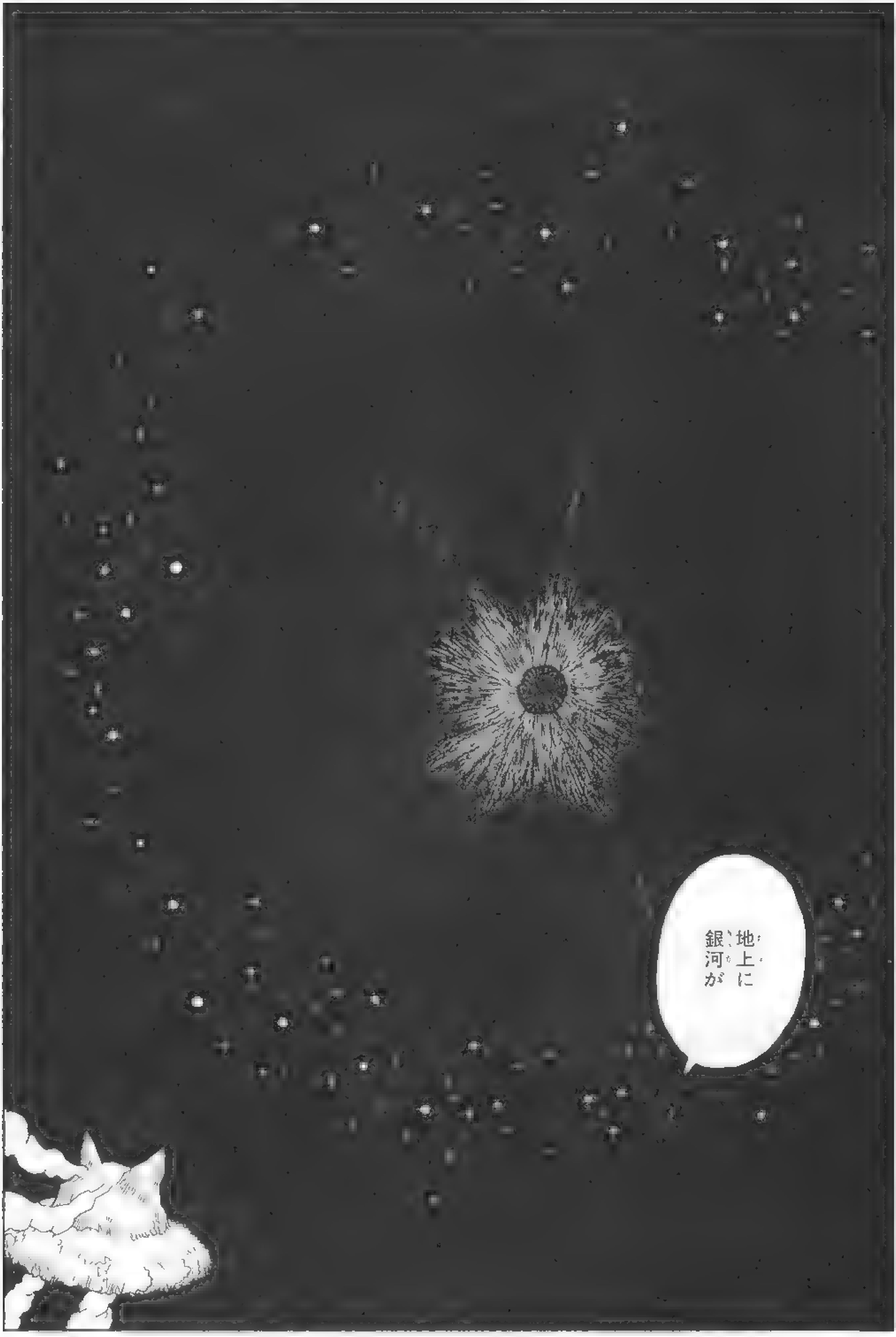
大噴火は見たいけどこの山は噴きません
じゃあ
これ時王
どこへ行く?
不思議な鉱物を調べに
不思議な鉱物?
なんだいこれは
ミンミン・フミンミン山から流れた熔岩が浸蝕された景色だよ
それで不思議な鉱物というのは?


あたり一面熔岩でできているのに
先端が物質変化している
物質変化？
ああ月光石に似た新種の鉱物になっているんだよ
いろんな熔岩流の跡を見て来たが
こんな変化は見たことない
新種の発見か
月光石の仲間なら月光を浴びて輝きますね
そうだな見ものだぞ



あちこちに在るから
ハア〜〜〜ッ
煙ブッと噴うきゃ
アイツ奴隷になりたくなくて必死だなあ
テマリちゃんどうすんの？
あんな奴奴隷にしても働かず食ってばかりでしょう
うーっ
月が輝いてるのにあの月光石輝きませんねぇ
垂直系の月光石だな真上からじゃないと輝きが見えないや
真上から見るのはムリですねえ


ムリじゃ ないよ
奴隷の飛行船がある
あっ そうかっ
…なんじゃと
失敬なっ
しかし かわいい弟子の頼みなら やってみよう
オリャッ
オリャ オリャ
うっ
なんだこれ!?
あれっ
もっと高く上がって


地上に、銀河が

第二話　ミンミン・フミンミン②




ああ…まるで銀河だ
銀河どころじゃないこれは星図だ
星図!!
ホラ……あそこにウサギの耳座
ホントだっ
となりに銀クジラ座がっ
え〜〜〜っ
これはいったいどーいうことですかっ



熔岩流の中にできていた月光石が…
星座の位置に並んでるなんて…
う〜〜む
パチ…
ん？
おんや時王
なにをしとるんじゃ？
雲母に記録してるんだよ
翌日
ハアー
もっと噴け噴け地鳴りーもゴゴゴッ


もーっ奴隷にしないからさ
その歌やめてよ気持ち悪いしムダだし
ムダ?
ワシの歌は心の歌ですぞ
必ず心は通じます
山は私のために紅マグロのために大噴火するのです
ハア〜〜〜ッ
ウニもいいけど
あの男…まったく使えない奴だなや
やっと気がつきましたね
しかしどうしてこの山を噴火させたいのですか?
へっへっへっ
それは秘密だす


秘密ですかっ気になりますねえ
時王雲母はどうだい？
ああ
しっかり写ってますよ日光浴びて
おっ…見事なもんだな
まぎれもなくウサギの耳座のあたりの星だ…
あれ？
どうかしたんですかパンツ君
フーム…この辺に図書館とかないかなあ
図書館？


図書館ならパギリアンペにあるだよ
ありゃなんだ
飛んでるぞ
シューーー
凄げー
やっどーも
あっヌメチャ様だ
おっヌメチャ様ーっ
あらあらアンタ偉い奴だったのね
別に偉くねえよ


オラの先祖がこのあたりを切り開いたんだよ
そーだ図書館に行く途中におもしろいものが…
おもしろいもの？
ホラ ここさ
なんだコレは？
古代の建物ですねっ
ミンミン・フミンミン山の噴火で埋まってたんだな
凄い噴火があったんだな
あれ


カギラジ文字だ
なんとも めずらしい
おまえ
この文字
読めるのか?
ああ
「ミンミン山から
あふれ出すものよ」
「黄金よりも
すばらしき
ものよ」
黄金よりも
すばらしきもの?
やっぱり そう
書いてあるんだな…


ヌメッチャさん まさかそれで噴火を？
ヒデ丸君 大当たりー
ええ!!
そんなことで!?
偉いぞっ ヌメッチャ
黄金よりもすんごいものがあふれるのよっ
絶対噴火させましょう
しかし黄金よりもすばらしきものってなんだろうね
黄金でできた紅マグロであります
それが何万本も噴き上がるのじゃ
あれっ


これは…
ん？
その鉱物どうかしたのか？
乱鳥石というめずらしいやつだ
乱鳥石？
まさかこれが黄金よりすばらしきもの？
テマリ君こつけな石がすばらしいわけねーべよ
まあ…黄金よりも安いだろうが
ほとんど見つからないもんなんだよ
そんじゃ図書館さ行くか


ここが図書館だす
なんとも嫌な匂いがするのう
嫌な匂い？
書籍木の匂いのことだろう
いい匂いなのになあ


匂いが
嫌なら
入らなくて
いいぞ
それが
弟子か師匠に
言う言葉くあっ
断固ついて
行くぞォ
なんだ こりゃ
星の部屋か
ここらが
ウサギの耳座だ
時王 日光雲母を
重ねてみてくれ


おっ……
ピッタリだ
あれっ…おしいな
おしい？
ホラ見て下さい
ん…
あれ…
1個だけズレてる
1個だけズレてるか…やはり…
おっほっほっパンツ君



こんなに星がありゃあ
1個くらいズレんべよォ
そーじゃありませんよ博士
これだけ正確に配置してあるのに なぜ1個だけズレてるか
そこですよっ
そういうことだ
行くぞ奴隷君
ぬあんだとォ
失敬なっ
正しい位置ならこの辺に…
これかなあ
穴があいてますねっ
これじゃないですか



いったいなにを調べようとしとるのかね
星図のように並んでいる新種の月光石が1個だけ別な所にあるのさ
うむ…ズレてるのはこれか
おーい見つけたぞーっ
ようし僕がこいつをはずしてあの穴に移動してみよう
シ〜ン



僕の力が効かないなんて
どういうことだ?
ほとんどの鉱物が
僕の命令に従うのだ
これはなんかおかしいぞ
酒だよ こんな時オトナは酒の力を借りるのじゃ
原因はこれだな
なんですかこれ!?
ギリアメ結界印だ
ギリアメ結界印?


古代の呪術師たちが作り上げた強烈な念だよ
あれ…
このはめこまれている鉱物乱鳥石だ
乱鳥石ってあの遺跡の壁に埋めこまれていたやつか
ええ…「山から黄金よりすばらしきものがあふれる」の文字のそばに…
ううむ…どういうことだ
うっ
この結界は時王でもやぶれない
ぬあ〜〜〜にがケッカイだ


念とか結界とか
ワシの紅マグロ科学には通じんぞ
わけの判らんことを
よいか こんな結界印なんぞにさわっても…
ほれほれ なんともないのよ
ペタ
ペタ
ホントだっ
どうしてなんだ？
まっとうな心が微塵もないからだろ
さあ良い子は離れてね
あっ 猫火薬棒


ドドウ
フーッ
ムチャやるなあ
ホホホ
これか？
うっ
あっ
結界印が
まだ効いてる
のか
そつけなもん
ワシには
通じんぞォ
ほれほれ


凄い男というか…
ひどい男というか
うーっ重い…
穴はまだかあ
これだよ
あっ
どうした時王？
石が騒いでる


石が騒いでる?
ヒデヨシ君 その穴に置いてはダメだ
ダメと言われて止めたことなし
オリャッ
ありゃ
んっ
うっ


ドドッ
イエーーッ
あっ


噴火したっ
やったあ
紅マグロぱくぱくだっ
さーっ
テマリ君
お主はワシの
奴隷じゃぞっ
うむむむっ
悪夢だ
「ミンミン山から
あふれ出すものよ
黄金よりも
すばらしきものよ」
いったい なにが
あふれてくるのだろう
黄金の
紅マグロか
大タコじゃよ
熔岩は
流れ出ま
せんねえ
あれれ
噴煙の中から



第三話　ミンミン・フミンミン③




にゃ
熱っ
熱いに決まってるよ
火山弾なんだから
しかし変な火山弾だな
フワフワしている
ええ水晶系の軽石のようだけど


こんな奇妙な火山弾見たことないよ
こっけなものしか飛んでこないのか
熔岩は流れませんね
コラッミンミン山
黄金の紅マグロはどーしたっ
すんごいものがあふれ出すんだろっ
「ミンミン山からあふれ出すものよ黄金よりもすばらしきものよ」って…
やっぱりこれが
それを意味するものじゃないか
なんじゃとうむむっ…


あ〜〜〜諸君
あの山を噴火させたのはワシでありますから
この火山弾はずえ〜〜〜んぶワシのものだぞ
ただし時王君には研究のために1個あげよう
1個!!
この欲ばり男っ
こんなにたくさんあるんだからケチくさいこと言うんじゃないよ
おんやテマリ君
そんな口を御主猫様にたたいて良いのかね



さーーっ
奴隷のテマリよっ
最初の命令は
火山弾を
拾い集めて
噴気意丸に
載せろい
へいっ
御主猫様
いよーーし
やーっ博士っ
ホントに
噴火させ
たなあ
おっ
ヌメチャ君
いや〜〜〜っ
たいしたもんだ
お前様は
大天才だな
いえいえ
超天才です
紅マグロ
よろしく
もちろん
差し上げ
ますべえ
ところで



これが黄金よりもすんばらしいものか!?
そーじゃ みーんな ワシのものじゃ
なに言っとるんだ こったなもの 拾った者の もんさ
そーだ そーだ
こら奴隷 黙って拾え
オラも どんどん 拾うぞい
あれっ
噴煙が おさまって きたな
噴煙なんか どーでもイイのじゃ テンプラ拾えーっ


噴気意丸に積むのじゃあ
積みます積みます
しかし
こんなに集めてどうすんだよ
私にもわっかりませーん
ヌメチャさんの家ずいぶんでっかいね
よほどの悪事をして儲けたのう
なに言ってんだい ささどーぞ


おっ ワシ好みのタンスだのう
フーッ… やれやれ
カラ カラ
ずいぶん集めましたね火山弾
まったく欲の深い奴だ
ほっ
お前様に言われたくねえぞ
シューーッ
あれっ
1個だけ青い煙を吹き出したぞ
しぶとい奴だ


あっ
破裂したっ
シュー
わっ　みんな割れた
くっそーっ
どーなっておるのだ?
なにを吹き上げたんだろう?
フーム…さっぱり見当もつかん
もががっ
ワシの集めた火山弾は無事か!?
火山弾ちゃーん
ドス
ドス


ありゃ
にゃーっ
みんな割れてる
あれっ
これ…青い煙を集めて
オオ少しでっかくなっとるぞっ


キキッ
キッ
あっ 変形しだした
なんじゃ コレは?
痛っ
うっ これにも念が入っているのか!?


念も借金取りも
ワシには通用せんぞい
ほれ
にゃあっ
あっ
通用した
あいつにも
通じる念なんて
あるんだ
むががっ
が
じゃーーん
あっ
おさまった


なんだろ これ?
フェフェ
うわっ
ビビッ
だめだっ ヒデヨシしか さわれないっ
時王 あれは なんなの
わかんないよ 僕の力に まったく反応 しないんだから
おいテマリ これを首に さげれるように ツル取ってこい
へい
どうやらコレが 黄金よりも すばらしきものの ようだな


ホラ
じっとして
らっ
ほえほえ
こんなところに
あっ
それは!!
胡椒花です
ハックシュン
ハアクショ
こらっ それは
強烈な胡椒花っ
ゆするなっ


オレには
こんなもん
効かないのさ
ファクショッ
ふっ
ふぇっ
ドドコッ
ら
家の壁がっ
凄え


なんだ こりゃ?
悪ーっ ヌメチャ 家ぶっこわして
いいさっ そんなことより 凄いな これは… やっぱり!?
キャーッ 凄いわーっ
ああ たぶん
胸にぶらさげてるもののせいだ
ちょっと こっち 来てみ
これに くしゃみ してみろ だと?
くしゃみ なんて やたら 出ないぜ

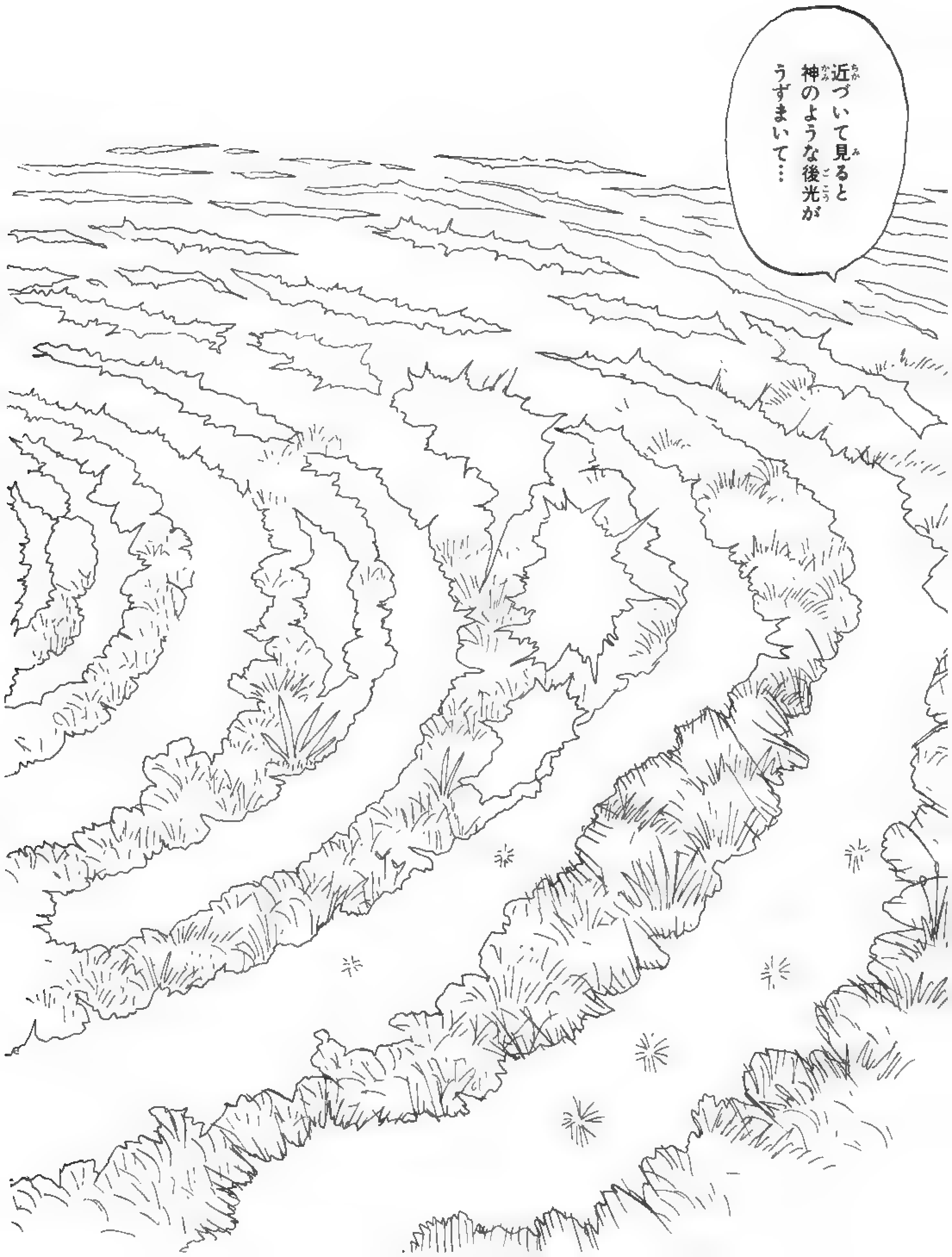

アンタの馬鹿声でいいんじゃないの
同じようなもんでしょ
まーっ反抗的な奴隷だこと
よーし 行くわよっ
紅マグロゥ
ズズッ
ああっ岩がふるえてる
手ぬくんじゃないよっ もっと腹から声出しなっ
ぬわんだとォ
おのれ


酢ダコちゃん
あっ
割れた
恐ろしき
馬鹿声
凄え


ああ なんて すばらしい
こんな すさまじい力 見たことねえ
えっへん
しっかし大声出したら 腹へったなあ
判りました 私がお食事を 用意いたします
私にも作らせて 下さい
いよ〜しっ やっと奴隷 らしくなって きたわね
パーン
ヒデヨシ様は お待ちを こちらに お食事を おはこび いたします
にゃ？


どうしたんテンプラ？
今までこんなに凄い方だとは思いませんでした
長年の御無礼おゆるし下さい
ゆるします
ゆるしますとも
ささどうぞ
おほほ
お口をアーンとして下さい
なんだこりゃ？
みんないったいどうしたんだ
おいパンツ噴気意丸の中にオレの酒がある
持ってきてくれ


かしこまりました
すぐにお持ちいたします
そーよいたしておくれ
ちょっとパンツ君
いったいどうしたんですか
オレはヒデヨシ様に頼まれて酒をとりに
ヒデヨシ様?
ああ
今までオレは気づかなかったっ
あの方は
…あれ?
そうか
ここから見ればただの馬鹿男だが


近づいて見ると
神のような後光が
うずまいて…




顔面からは慈しみの輝きが

第四話　ミンミン・フミンミン④




ハーイ
親父
大盛りウドン
3つね
お客さん
ワシャ長いこと
店やって来たから
感じんだがよ
アンタ
ひょっとして
銭持ってねん
じゃないの?
ら
なんで判るの?
直感だべ
無銭飲食は
お断りだっ
帰ってけろ


いーや帰りません
アンタはどうしてもオレにウドンを食わせたくなるのよーっ
こーら どっとと出てけっ
ひっ
失礼すますだ
こんな立派なお方だとはっ
どうかワシの作ったウドン
御試食下さいっ
よろしいっ ドンドン作りなさい
フェフェ
効くなあ この「キクキク石」!!
んめ〜〜〜っ いい味してるぜいっ
んっ


ウドン屋に入ってるな
うっすらとモヤが漂ってるんだよ
あれが下僕になると光り輝いて見えるんだ
でも どうしてオイラや時王はキクキク石が効かないんだろう?
子供には効かないってことか
大人びた心のなにかが影響を受けるのかもな
あっ


フーーッ
食った食った
アリガトウございますっ
又おこし下さい
あらんっ
テン・パンにヒデ丸
うまいぞっ
ここのウドン
タダで腹いっぱい食わせるから来いよっ
いらないよ
食うなら金払って食うさ
ほほほ
離れていると生意気な口きくわねえ
そんなら…
こっちから近づいてくぜいっ
わっ
逃げろっ
出てきたな



うわっ
らっ
こんつわん
いらっしゃい
オレに似合う服
タダでちょーだい
タダ?
タダなわけないでしょう ここは店だよっ
タダで十分っ着ていただけて幸せですう
まーた来るわよオ
最高だわあ
街中みんなタダッ
いーなーキクキク石


らっ
あれっ
キクキク石
輝きが
増して来たぞ
あ〜〜〜っ
なんて
ステキな
おデブ様
わっ
石の
力が強く
なって来た
もっと離れないと
やられてしまうぞ
おお
ヒデヨシ様
諸君
私は今
黄金ウニと
酢ダコが
食いたい
あっ
らっ


ツキミ姫っ
なんだか変な胸さわぎがしたから来たのです
イエーッ これからウニとタコ食うのよ 一緒に食べようぜっ
いりません
それより胸からさげてるもの外しなさい
にゃ
ハハァン
ツキミ姫これが欲しいんだな
でもあげないよォ


欲しいんじゃないよ
その石 とにかく外しなさい
やだよ
キクキク石は最高なんだから
ホレホレさわってごらん
ドス
!
さすがツキミ姫
ツキミ姫ヒデヨシに近づくと みんなおかしくなるんだ
了解


断固外します
にゃっ
ピキッ
ひえっ
はね返した!!
コラ娘 ヒデヨシ様に なんという無礼をっ
ゆるさんぞ 降りて来い
参ったな
ひとまず
撤退
スッ
…フム



火山が噴火して……
ああ…
ヒデ丸 時王は？
乱鳥石が気になるって あの文字の所へ
私も行ってみたい
オレとヒデ丸はヒデヨシを監視するよ
ホレ ホレ
アハハ
いいぞ テマリ もっと踊れ
パン
パン
あいつ テマリちゃんに あんなことして
あとで ぶっとばされ ますねえ
あれ


モウ
イイダロウ
んっ
金色に
輝いてるっ
満足シタ
ダロウ
あいつ…
いったい!?
ジャア
行コウ
ふげぇ
ヨロ
ヨロ
ヒデヨシ様
どうかなされたん
ですか?



ミンミン・フミンミン山の
熔岩流の中に 星の位置に
点在する月光石…
そこに埋められていた
乱鳥石のギリアメ結界
その結界を張った
古代の呪術師が
この文字を刻み
乱鳥石を埋めたと思われる
残りは
3種か…
乱鳥石は
他の鉱物を
近づけると
変な現象を
起こす時が
あるんだけど
今回は
ダメだなあ
ボウッ
あっ
出た
出たのは いいけど
これがなんだか
判んないんだよねぇ
意識の
残影…
意識の
残影!?


この石を埋めた者の
その時の気持ちだよ
感じる…
…私は……
…ジョムジョラ
「ガピバル」から
…金色の光が
湧く時……
みなさーん
大変ですっ
どうした
ヒデ丸
ヒデヨシ君が
おかしく
なったんですっ
あいつは元々
おかしいけど…
いやっ
キクキク石から
金色の光が
パーッと出て


えっ
金色の光が
パーッと…
それって
「金色の光が
湧く時」!!
ドドーン
「ガピバル」って
キクキク石のことかっ
あっ
噴火だ
どうする
つもりだ
あいつ
噴気意丸に
乗る気か?
あっ
いたぞ
ヒデヨシ君
どこへ
行く気だろ


ゴゴゴゴ
わわっ 山頂に降りる気ですよっ
熱
熔岩があふれそうだ
ヒデヨシッ もどって来いっ
サア モウスグダ
ズウット 待ッテタンダ
貴方ガ……
ジョムジョラ?
ホウ
私ノ名ヲ……
……シカモ…


私ニ呼ビカケラレルトハ…タイシタ能力ダ
がびばるヲブラサゲラレル奴ニツイテ来タダケノコトハアル
ヒデョシ君は友達ですっ
貴方の呪縛から解放しなさい
…長イコト待ッテイタンダ
スバラシイ肉体ガ来ルノヨナ
サア来イひでよし
熔岩ノ泉ニ飛ビ降リロ
飛びます
飛びます
おいっ死ぬぞ飛ぶんじゃないっ


オマエノ体ガ溶ケダス時私ハ再生スル
サア飛べ
いっせーの
アアッ
トプッ
らっ
わわわわわっ
クソッ


キャーーッ
助けてくれーっ
逃ガスモノカ
早ク溶ケロ
ウッ
……
ふう
なによっ なんなのよ〜っ
あれっ


なんだコレ？
にゃ？
死んだ者たちの念です
死者たちの念!!
ジョムジョラは結界を張って
この火口の奥に念を集めていたのです
らっ
キクキク石がないぞっ
パン
熔岩の泉に溶けてしまったよ
え——っ

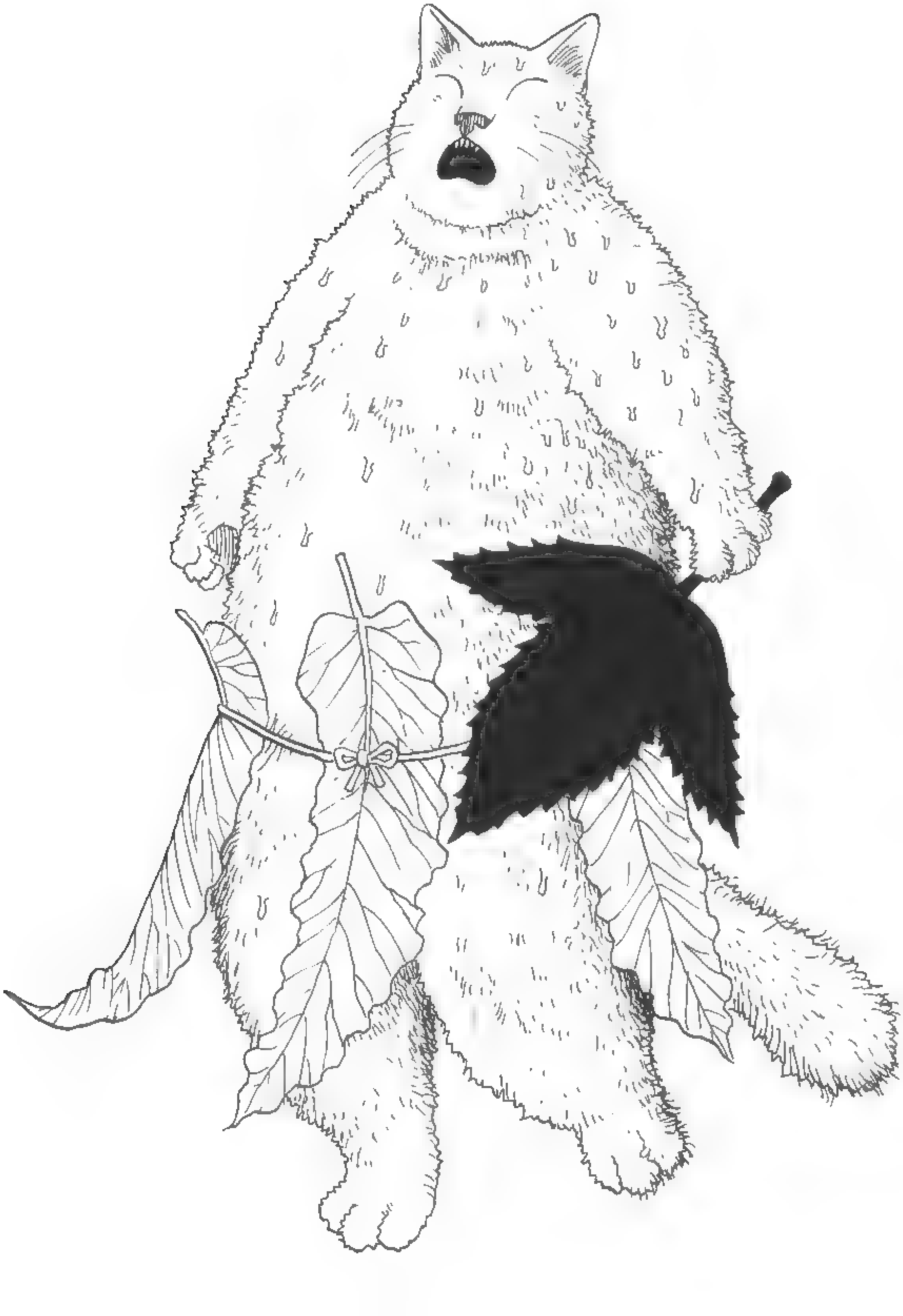

キクキク石…「ガピバル」が強烈な力を持っているわけは
死者の念が凝縮してたせい…
……
……
なにか 小さくささやいてる
ホントだ なにか言ってる
死んでいった者たちが死ぬ間際に思ったこと
この世界への想い残し
にゃにゃ
その時刻が来た時… オレは

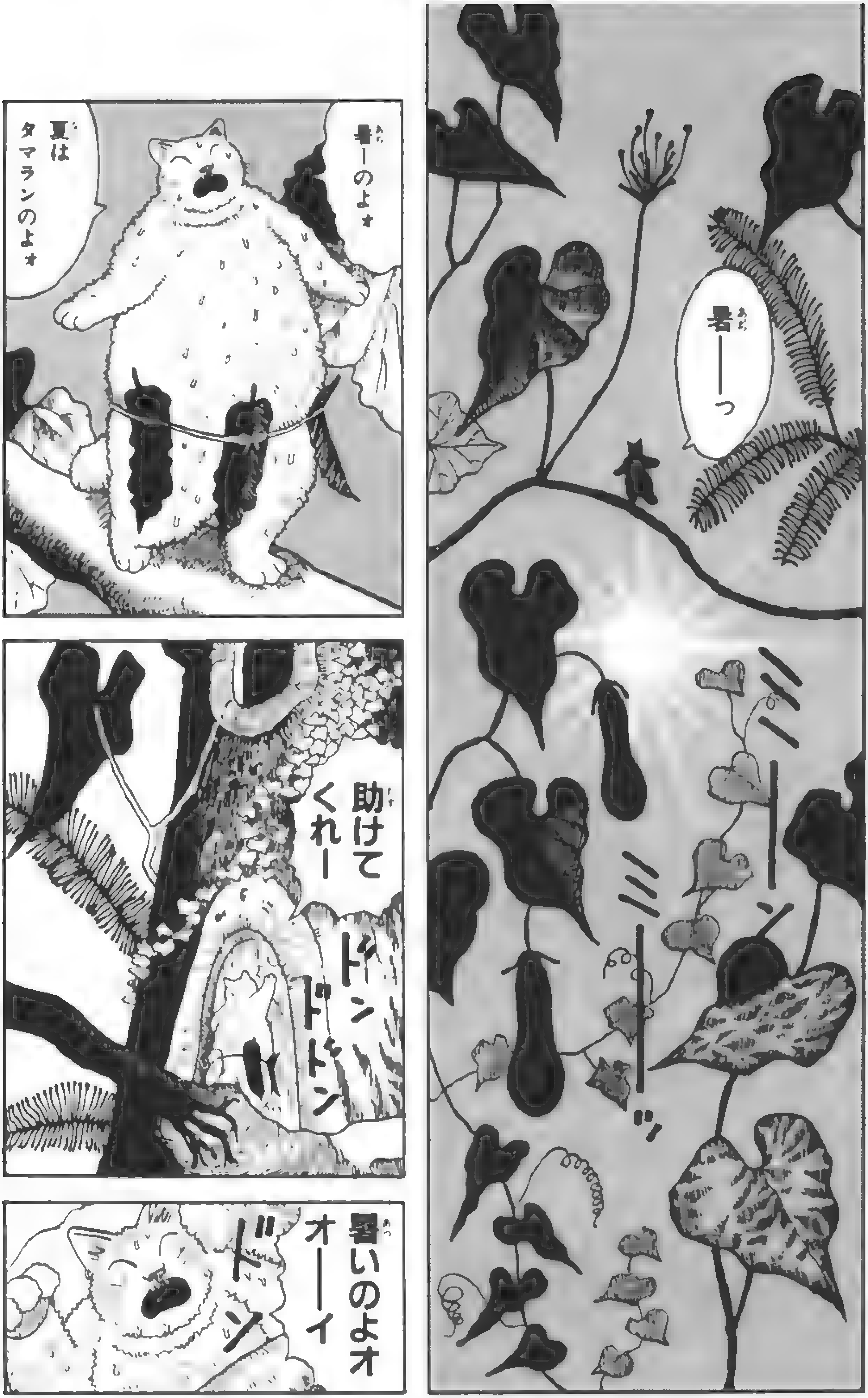

なにを想い残すんだろう




「酢ダコ食いて」かなあ

第五話　暑イノヨオ




暑ーーっ
ミーーン
ミーーッ
暑ーのよォ
夏はタマランのよォ
助けてくれーー
ドンドンドンドン
暑いのよオオーーイ
ドン


父ちゃん ヒデヨシが 汗まみれになって
わめいてるよ
暑ーーっ
コラ うるさいぞ 夏は暑いんだ ガマンしろっ
タマラン 助けて おくれっ
だいたい 裸で いるから だよ
服を着ろっ
服着たら もーっと暑いべよォ
馬鹿だなあっ お日様の日差しを 直接浴びない方が 涼しいんだぞ
らっ
そうなの?


うう
服っ
ミーーン
ミーーン
服
暑〜〜っ
服くれ〜〜っ
凄い汗だな
おまえ
タマランのよォ
涼しい服ーっ
涼しい服ねえ
これなんか
どうだい？



おっ
いいねえ
よーーし
コレにしよう
でっ
値段はいくらなの?
おまえに値段言っても金持ってないだろ
あらまっ
物々交換といこう
オニワサビをごっそり採ってきてくれ
よーし
いいだろう



んっ
ほほ 釣りですかい
あれ ヒデヨシ その服 どうしたのさ
タコモン服店で 買ったのさ
あそこも 頑固だよな タコ紋様の服しか 売らないんだから
で なにと 物々交換 なのさ?
らっ どうして 判るのだ?
腰にハケゴ (カゴ)してる じゃん


ほほっ「オニワサビどっさりこ」である
オニワサビか あれは んまいけど
おまえしか採れないからなあ
暑いよオ
たまりませんぜ〜くっ
くそーっ暑いーっ
暑い暑い言ってると もーっと暑いわよっ
あっヒデヨシ
なに言ってんだっ おまえこそいつも
「暑いのよォ」って わめいてるじゃないか
らら
服着ても ダメだ だんだん暑くなってきたわ
ハケゴつけて… なに採りに行くんだ?
くっ

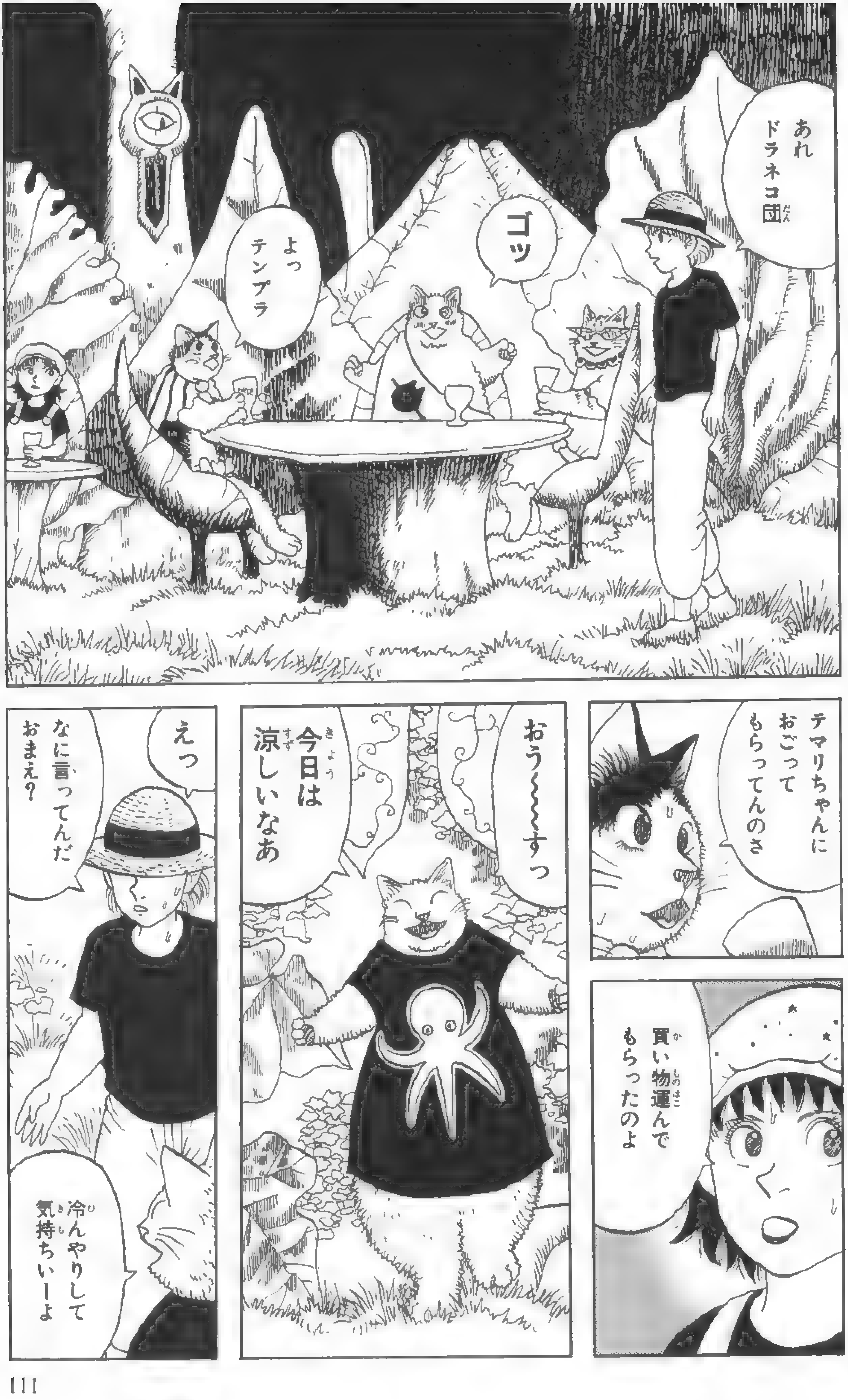

臭〜〜〜っ
激臭
ホホホ オニワサビは んまいけど
ドブ沼に 入らないと 採れないのよね
ヒデヨシッ おまえは 凄い奴だっ こんな臭い沼に 入れるなんてっ
まっ
ミーーン
この辺に お湯湧くように なってさっ
湯に漬かれば 臭いも消えて イイ感じなのよ
ミーーン
湯上がりは 涼しいが


やっぱり暑いのよオ
うう
おまえの声って暑苦しいなあ
でも暑いよお
カツラもヒデヨシも大デブだから特に暑いんだよ
どうしてだろ
ホントだ
涼しい風
らっ
涼しいぞ
らっ


ミーーン
ミィーーーッ
キッキだ
おーいキッキッ オレだっヒデヨシだぞ
シーーン
なんだ アイツ 死んじまったのか


枯れてないから死んでないだろ
寝てんのかよ まったくっ
おっ近づくとヒンヤリする……
ホントだ
涼しーっ
いいぞキッキ
ミーーン
あーーっ イイ気持ち
冷んやりー
この木 ヨダレ タラタラ 出てるね
ヨダレじゃないよ 樹液つーんだ
じゅえき？


ああ
木がたらすヨダレみたいなもんさ
なんだよその説明
フフ
ミーーーン
ミーーッ
翌日
ミンミン
うぐぐっ
暑ーっ
冷やしコーヒー大盛り
らっしゃい
大盛り一丁


あれ
ドラネコ団
ゴッ
よっ
テンプラ
テマリちゃんに
おごって
もらってんのさ
買い物運んで
もらったのよ
おう〜〜すっ
今日は
涼しいなあ
えっ
なに言ってんだ
おまえ？
冷んやりして
気持ちいーよ


汗ダラケ猫が汗かいてませんよっ
変ですねーっ
そーいえばカツラ
おまえも暑いって言わないな
オレも冷んやりだよ
なに!?
どうしてヒデヨシとカツラだけ冷んやりなんだ!?
フーム…
ふたりとも巨漢だから
原因は体重と関係ある…かな
こう暑いとデブでもいいから楽になりたくなりますねぇ


デブでケッコー
あれ？
おまえの服のタコ紋様消えてるぞ
らっ
ないっ
おかしいなっ さっきまであったのに
安っぽい印刷かなんかで消えたんじゃないの
ぐぶぐぶ
気に入ってたのにい
あっ



テンプラ君の背中にっ
えっ?
ホントだっ
オレのタコがっ
コラッタコッ
勝手にこんな所に
行くんじゃないいっ
わっ引っ張るな
あれっ
んっ
どうしたん?


涼しい
涼しい!?
ああ
なんだろう 凄く冷んやりしてる
うぐぐっ 急に汗がブッと出たっ
暑いのよーーっ 帰ってこーいっ タコーッ
涼しーっ
あっ


んっ
おっ タコちゃん
キャーーーッ
涼しいーーっ
うう 暑いよォ
暑よーっ
んっ あれっ
カツラのダンゴの紋様が消えたぞ
うっ
涼しーっ


あっ
テマリちゃんに
移ったっ
どうなって
るんだあ
ヒデヨシ
その服
ぬいでみて
調べてみよう
樹液だ
不思議な
樹液が付いてる
樹液？
キッキの？
キッキ!?
ああっ
昨日 森の中で
見つけたんだ



涼しい風が吹いてね
ドラネコ団とキッキに寄りかかったんだけど
樹液タラタラくっついた
らぁ
一段と冷んやり
んっ
らっ
ダンゴとタコの紋様がっ


あらっ
ペタッ
わっ
涼しい
うーっ
ダンゴも涼しいぞ
ヒデ丸っ
つかまえろっ
よーーしっ
オレたちもつかまえるんだっ
ゴッ
ミーーン
ミーーッ
リリン
リン
えーっ
涼しいよーー



涼しいタコとダンゴだよーっ
こんなのでホントに涼しくなるのか？
フフッつけてみ
うう涼しい
5銅貨だな
ありがとさん


涼しいよー
うへへっ
しかし涼しいなあ
ああ恐ろしく冷んやりしてる
そうか…
この涼しさって。。。


ミーーン
深い森の奥の冷たさなんだ

第六話　海ノ王様



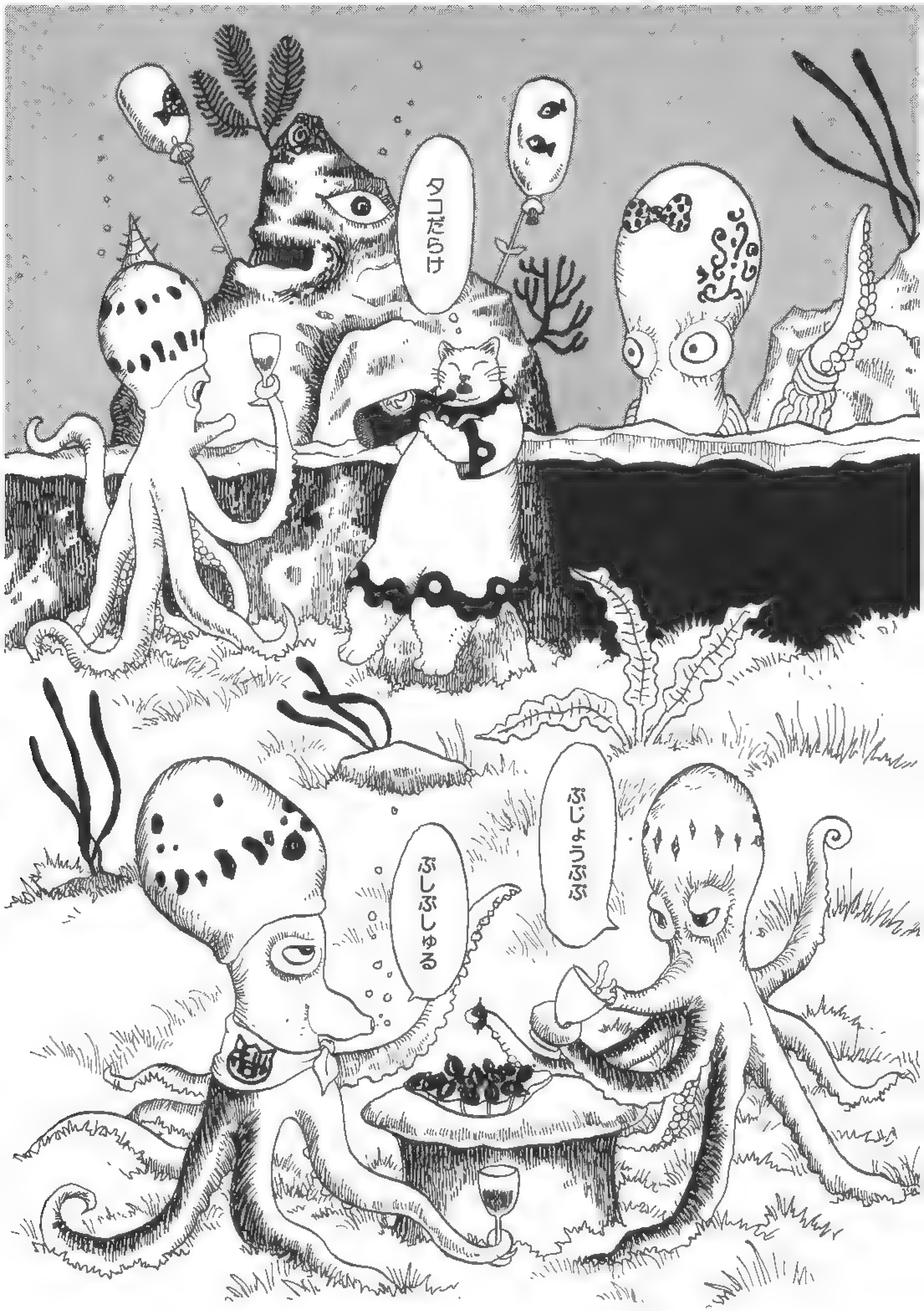

しつこいんだよ
おまえ
ザザザーーッ


父上ヲ生食イシタ鬼畜猫
父ノ敵ーーッ



謝れ ヒデヨシ
スミダラ君に土下座しなさい
お——っ テンプラ タコの味方すんのかよっ
スミダラ君の家来になったのです 深く詫びなさい
タコの家来だと… 情けない奴だなあ
食ラエ
ボ
わおっ


ウニ爆弾なんかにやられないわよ
ゼゼンマグロ捕りだよ
おいしいよ
紅マグロよりうまいのだ
わ〜〜〜ん
オレも行きます
ら
諸君どこへ行くんだ?
槍がいるよ
槍
槍…
ザ
ザ
ッ
ッ
ら
んっんっ
んっ


タコだらけ
ぶじょうぶぶ
ぶしぶしゅる



ウウ…
オレノ蛸壺ハ
ドコニ行ッタンダ
まっこう鯨ノ
野郎———ッぷし
ナナッ
もう ヤメヨウ
死ニマスぷし


クソ
ざるばるすメ
ヨクモーーぶし
ギルバルス？
オマエ
ざるばるす
知ッテルノカ
ああオレの
家来だよ
ちょっとー
なんなの
よーーっ
ざるばるすハ
ドコダぶし
居所ヲ
言エっぷ
痛で
知らないわよっ


アイツハ家宝ノさざえ笛ヲ盗ンダンダぶしぶし
居所ヲ言ウマデブッ叩クぶし
痛でぶし
スミッチなにをしておるのだ
あッツキミ姫助けてくれーっ
ツキミ姫……
それは地上での呼び名……この地ではサンゴノ宮なり
この者……ギルバルスの居場所は知らぬ
解放せよ
無条件デ解放ぶし？
ではマッコウ式にしたまえ


コラー
なんのマネだあ
うんせ
ザリ ザリ
うんせ
マッコウ式か…
タコミ姫の
やり口よのう
ら
タコミ姫？
サンゴノ宮って
言ってたぞ
タコミ姫はな
三日月の光で
タコたちを操って
遊び暮らしてるのさ


タコのお姫様なのかよ〜っ
ところでマッコウ鯨の尾ヒレ外してくれ
外してやりたいがおまえはもう猫鯨なんだ
ビョーゲー？
猫鯨さ
近ごろは鯨についちゃ厳しくてな
ヨネザアド鯨ノ友ノ会の会員じゃないとさわれないんだ
ゼゼンマグロ様は海ノ王であらせられる
くれぐれも食べようなどと思ってはならぬぞ
よいな
ザー
ところでお主
ゼゼンマグロ様を見なかったか
マグロ様？
…見てないぜ
「よいな」
だとォ

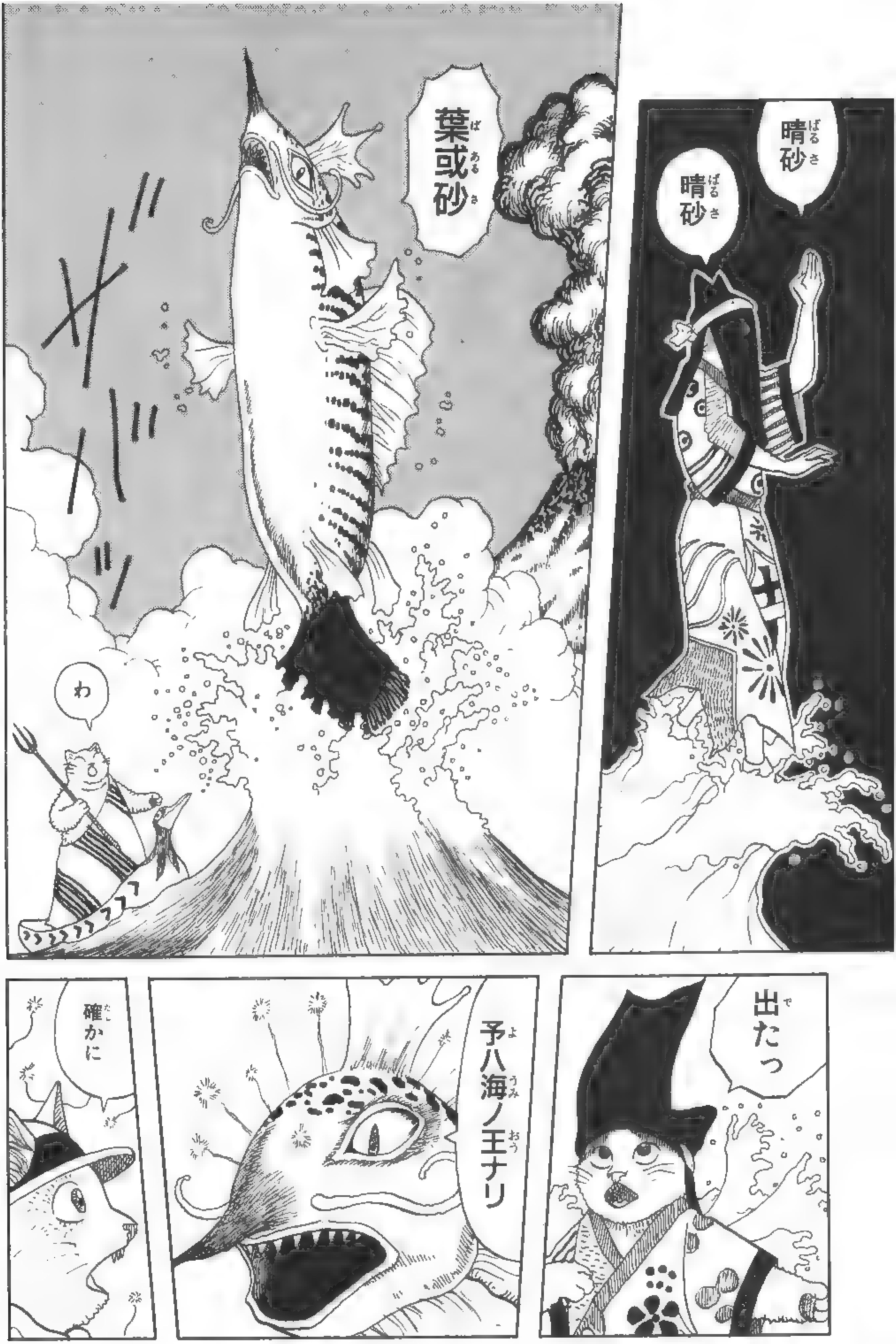

食うに決まってっぺよ
むっしゃ
むっしゃ
団子の匂いだ
らっ
むっしゃ
水引[redacted]の団子
んまいぜっ
うーーっ
オレにも食わせろ
舌が波打つ美味なもの


銭のない奴は食べられないのさ
ホレ
海底金貨だ
いつも銭がないと思ったら
大まちがいだぜ
なあギルバルス
タコからサザエ笛取っただろう
あんまりいい音色だったもんで…つい…
食べていいよ
どーも
あのね


欲しいからって盗んでいいわけないだろう
すまん
ドスドス
お詫びに槍をやるよ
槍?
そうだ
ゼゼンマグロを捕りに行くのだ
ゴロゴロ
いないねえ
ああ



おーい
ゼゼンマグロは
どこだーっ
ぜんぜん
いないよ
ゼゼンマグロは
暗闇舞々を好む
せっちゃ
武楽乱鍋
雲栗晴
田兄霧
野藻里塔
暗闇舞々か
よーいーわなっ



晴砂
晴砂
葉或砂
わ
出たっ
予ハ海ノ王ナリ
確かに

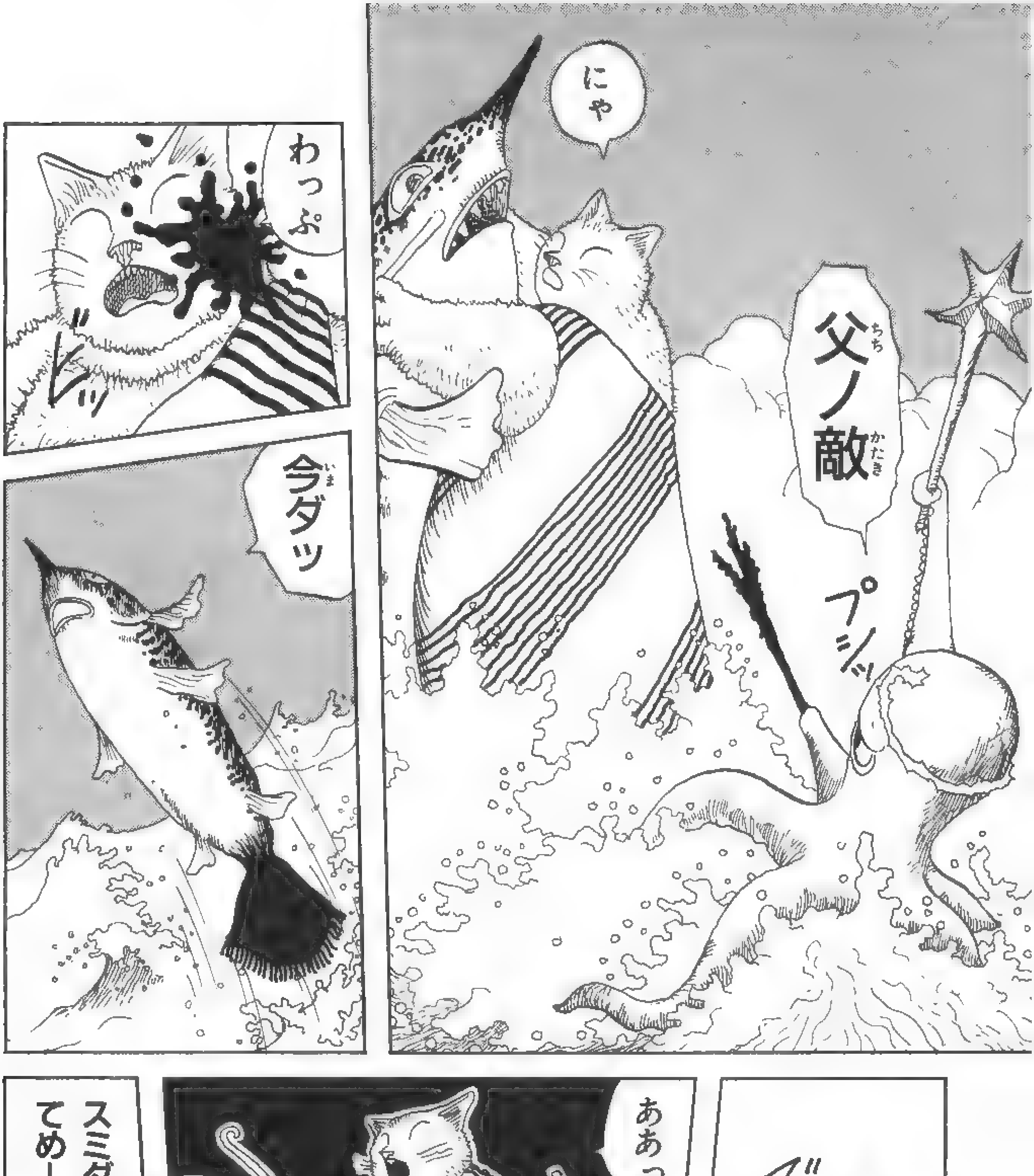

なんと威厳のある
この方を食べようなどと思う奴はいない
変だわん
こんなでっかい魚見たらヨダレ出るのに
涙が出る
ああっ眩しくて切ないよォ
眩シイカ…
オ主 今マデヨッポド海ノ命ヲ食ッテキタノウ…
ソノ涙ハナ懺悔ノ涙ジャ


残毛の涙？
ソウジャ たこヤまぐろヲ 大食イシテ キタコトヲ 悔イテルノヨ
サア モット 懺悔セヨ
もっと残毛 せよと 言われても
毛なら いっぱいあるわよっ
痛デデ
貴様 無礼者メ ヤメロ
ぬあーーんて んまそーな腹だ
かじりましゅう
コノ馬鹿猫 予ノ催眠海ニ入リナガラ 効カナイノカ!?
がぶーーっと 行くわよ～っ


アゴの下がんまいのよォ
ウアア
がんばれヒデヨシ


おおついに革命の時が来たのか
はたして王の徽章はいずこに？
王の徽章か


ではいただきましゅ
ヒイ


にゃ
父ノ敵
プシッ
わっぷ
ビッ
今ダッ
ズボン
ああっ
くっそーーっ
逃げちまった
スミダラっ
てめーーっ


ヒッ
髭
髭!!
海が…
ズ――ッ
ズズ――ッ
引いていく…
ウウ
うえっへっへ
頼ム
予ヲ
食ワンデ
クレ…
イイコト
教エテ
ヤルカラ
いいこと?
ソノ髭
付ケテミナ
こう?
おおっ


海を引き連れている



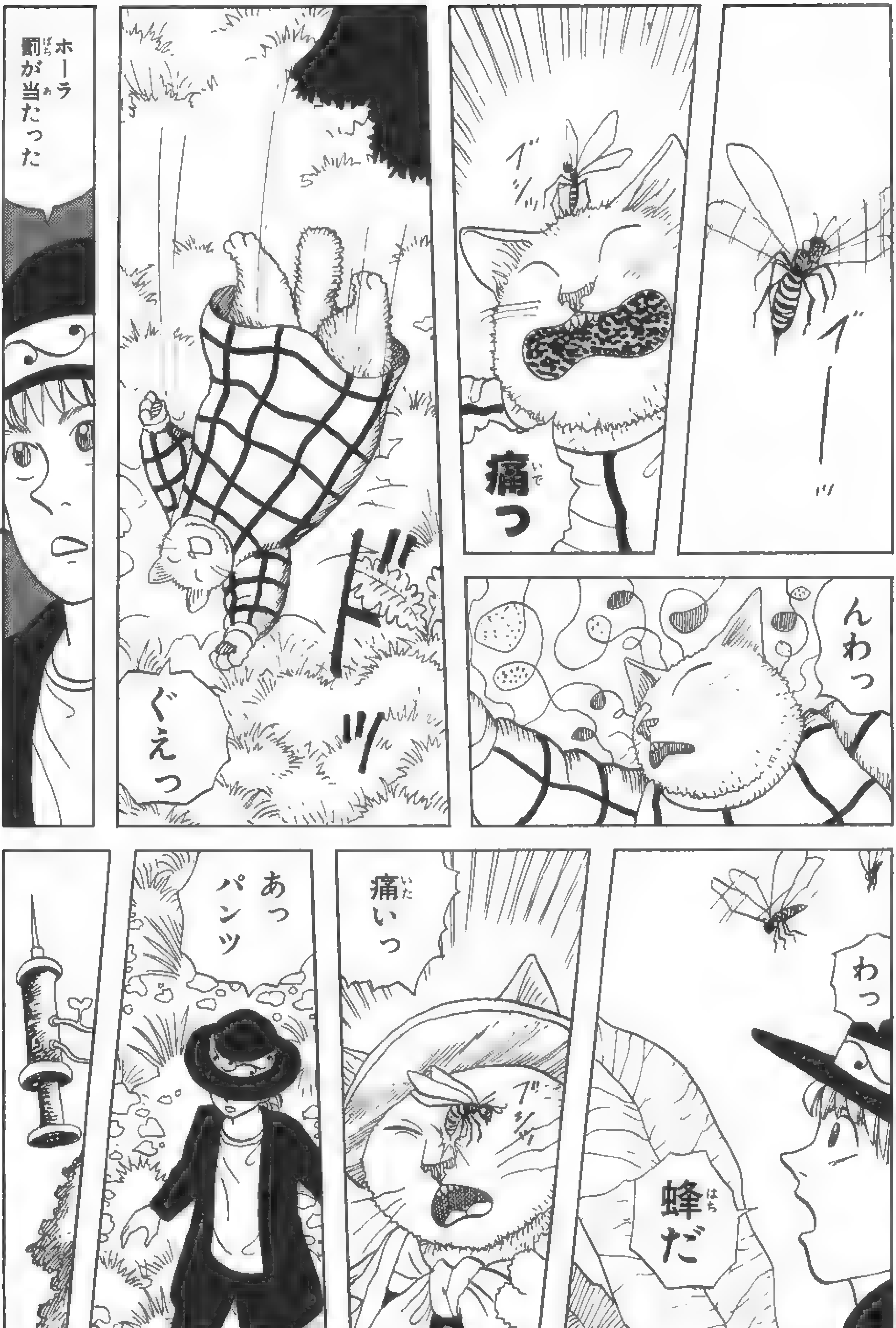

ザザーッ
ザーッ

第七話　ネンドン(前編)




おーい
パンツーーッ
いるかーっ
あれ
ああ
新種の蜂なんだよ
新種
不思議な
甘い匂いが
するな
蜂だね


こらっ
おまえ
なにやってんだっ
ほほほ
蜂の生食いに
決まってっぺよ
やめろっ
新種なんだ
貴重なもんだぞ
ゴタクは
聞きませんぞ
なんでも食わないと
気がすまない奴…
ブーン
ブーン
巣ごと
いただく
わよ〜っ
やめろ
刺されるぞ
猛毒持ってる
かも知れないぞ
蜂の毒
なんか
平気だよん


ブーーッ
痛っ
んわっ
ドドッ
ぐえっ
ホーラ
罰が当たった
わっ
蜂だ
痛いっ
あっ
パンツ


しびしび
死ぬ〜〜〜っ
ドコッ
ドフッ
こら
ヤブ医者
なんで
パンツだけ
やるのさーっ
おまえが蜂で
死ぬかよ
パンツは
普通の
猫なんだから
翌日
しかし不思議な蜂だな
刺された所が腫れてない
でも
全身が
しびれてるよ
そーよ
しびしび
なのよっ



蜂を生食い？
ああ 見たことのない 新種の蜂
ヒデヨシが 巣に近づいて パンツも 刺されたんだ
えーっ パンツ君も
それで トントコ医院に 入院してるんだよ
ヒデヨシは どーでも いいけど
パンツ君 だいじょうぶ かな
新種の蜂 …うーっ 地味な 記事だな
やーっみんな 心配させたなーっ


誰もアンタのことなど心配してないよっ
チクチクチクチク言葉の蜂女〜〜〜っ
パンツ君だいじょうぶですか
ああ
シビレもとれてもう平気だよ
それでヒデヨシ蜂の生食いの味はどんなもんだい？
おっハナブン
オレを心配してくれるのはおまえだけだよう
誰もおまえのことなど…
んっ
なんだか甘い匂いがするな
あれ…この匂い…
あの蜂の匂い
その手からするぞ
手？
らあっ


手が餅みたいにっ
ぷくーーっ
ぷっくらこ
うわっ
あっ
パンツ君もだっ
どうなってんのよ
コレ!!


蜂の毒が
回ってきたんだ
くっそーっ
蜂の野郎
こいつは凄いや
しかし痛そうだな
ぜんぜんだよっ
ジンワリ温かいだけさ
なんという恐ろしい姿
私があんな手になっちまったら…
バイオリンが弾けなくなる
嫌だ
嫌だ
伝染ったら終わりだ
手――っ
ぷっくり
タメーッ


手ぷっくり伝染ったら大変だあ
出てってくれ――っ
伝染る？
ホレホレテマリーッ伝染るわよォ
やめろっコラーッ
それでは試してみます
ハナブンさんひさしぶりに波風かわら版出せますね
へへ
こりゃあかわら版どころじゃねーな
えっ？
おーいヒデヨシーッ儲け話だ
にゃん


さーさー見世物だよー
たったの3銅貨で
デカ手猫だよ〜っ
なんだヒデヨシじゃねーか
これがデカ手猫?
ハナブン…サギじゃないのか?
ホントだよ銅貨3枚
ではみなさんご覧あれっ
変な蜂生食いしよーとしたら刺されてよ
それで手が



ぷっくらこっ
わっ でかいっ
ありゃー
うへへ
儲かったな 楽だなーっ 見せるだけ
明日は 滝森あたりで やってみようぜ
あれっ 急に甘い匂いが してきたぞ
らっ
うがが 手が痛えよォ



まさか破裂するんじゃねーだろな
こいつは記事になるな
破裂は嫌だーっ
ホーラ
罰が当たった
げっテマリ
腫れた手を見世物なんかにするからだよ
パンツ君から伝言だよ
「赤目玉岩で待ってるぞ」
赤目玉岩
テマリちゃん
パンツも手痛がっているのかい？
それは会ってのお楽しみ
痛てて



痛いのよ〜っ
パンツも痛がってるぞずえ〜ったい
フーム
なんで赤目玉岩で待ってるんだ
来たな
痛ーよ〜〜っ助けてくれーっ
パンツ痛くねえのかあ
昨日の晩から痛み出したな


これ 持ってみな
んっ
おふっ…
気ん持ちえ〜〜〜っ
なんなんだ それ
粘土だよ
粘土
ああ 正確に言うと 粘土混じりの土さ
だから もっと純度の 高い粘土を さわって みようと…
赤目玉岩の 先には ネンドン林が あるぜ


ネンドン林ーっ
凄い粘土だらけだ
痛てて…
やっぱり粘土さわってないと痛くなる
ああ…
いい気持ち
しかし どうして粘土が気持ちいいんだろう


フーム…
あの蜂と粘土の中になにか関係があるかもな
「蜂と粘土に関係ありか」とパンツ語る
う〰っ
気ん持ちぇー
あっ
弁当怪物
ホントだ
弁当怪物だ
うっ…
あの声…
ねえ君たち「弁当怪物」ってなんのことだい?
あのデブ猫だよ
幼稚園に時々怪物の着ぐるみで入って来て
みんなの弁当盗むんだ


オレなんか
3回食われたぞ
オレ みんなに
知らせてくる
はて…
なんのことやら
おまえ
幼稚園児の
弁当
食ってんのかよ
情けなくて
記事にならねえな
やーっみんな
なにしてんのかな
あっ
弁当怪物
うわーっ
手が
でっかい
ホントだ
すげーっ
ホホホ手 見ると
3銅貨なのよーっ
おい
子供から
金取るん
じゃねえぞ


粘土遊びかなに作ってるんだ?
猫だよ
うぷぷっヘッタクソだな〜〜〜っ
なんだとっおまえ作ってみろよっ
オレは「粘土のヒデちゃん」と呼ばれたんだぜ
作ってやろう
パンパン
ホーラ完成だぜ
なんだよコレ?
猫が魚食ってるとこさ
ヘタにもほどがある
おっ


すげーー
うまいなあ
確かにうまいねえ
ああ ヒデヨシとは大違い
弁当怪物とはぜんぜん違うねっ
ああ


だいたい子供の弁当盗み食いする奴はクズ野郎さっ
クズ猫が作ったものはやっぱりクズなんだよ
ムッ
ガキ共めいよいよオレを本気にさせたな
オリャ
それ
それ
ウリャッ
パン
パフ
うががが
気合ばかり入れてもダメだよ
落ちついて作れよ
うーっ
にゃ

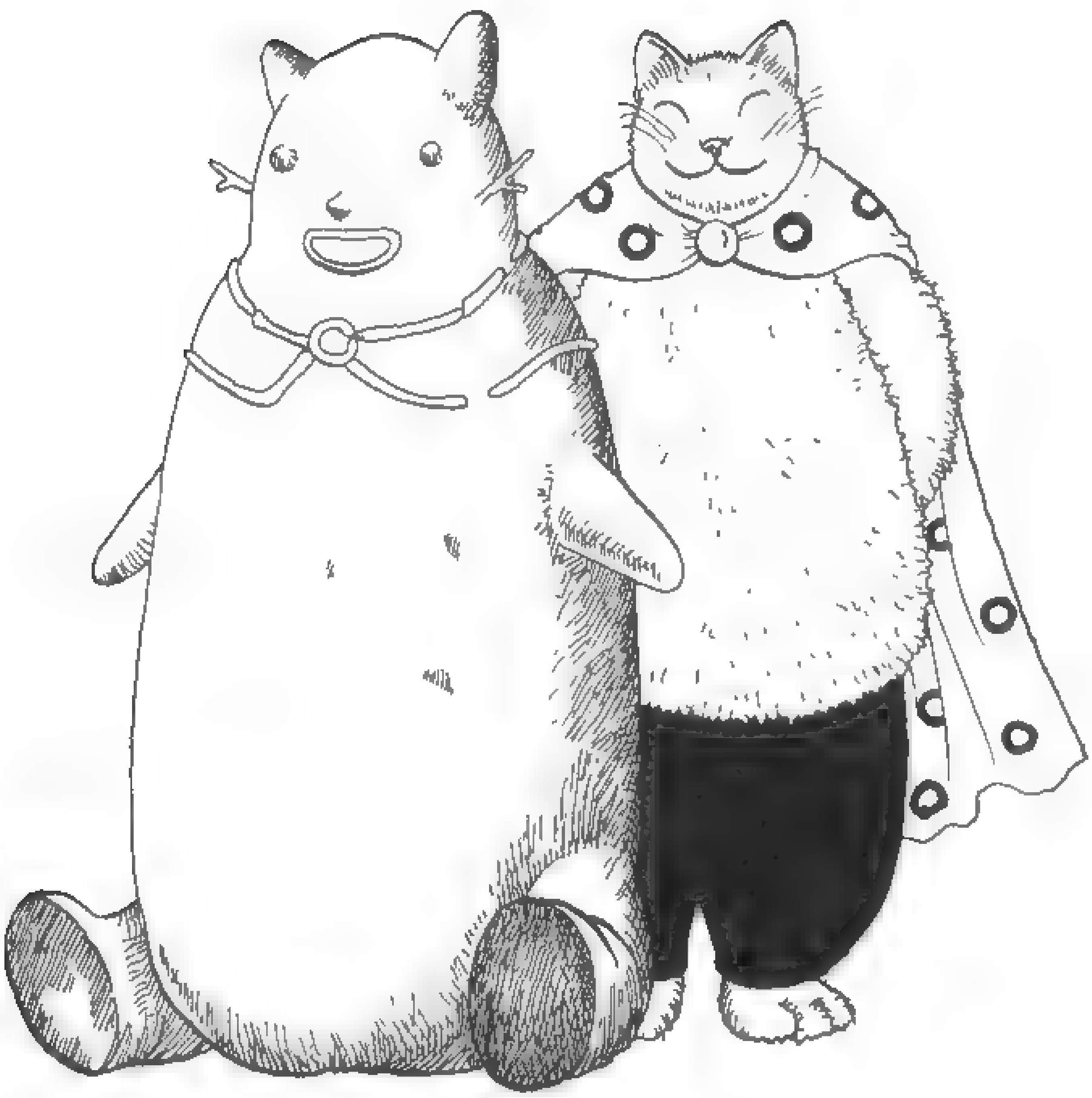

ふふふ
よーし
できたぜ
オレも
作ったぞ
タコ
オレは
鳥だぜ
よーし
それでは
撤収



しかし この「粘土パンツ」うまいねえ
誉めてくれてアリガト
にゃかにゃか
にゃん
あっ しまった
ネンドン林に パイプ 忘れてきた
ついて来なくて いいのに…
ヒマ なんだよ
この辺に 置いた ような…
んっ


煙草吸ってる

第八話　ネンドン(後編)




ら
フーッ
粘土パンツが煙草吸ってる
どうして動いてんだろう
判らん
よーっ
オレヒデヨシっつーのよ
パン


にゃ
言葉判んないんだよ
まあ粘土だもんな
ん
オーーッ
オレの作ったのも動いてるぞ
よーーし おまえに名前をつけてやる
粘土だから「ネンネン」
ネンネンなのよーっ



オレの作ったタコは動かないな
ペシッ
オレの鳥もダメだ
ほほほ君たちのは
心がこもってないからさーっ
なんだとォ
しかしどうして動くのだろう…？
やっぱり謎の蜂に刺された手で作ったせい…かなあ……
この手は見世物にして稼げる手なのじゃ
翌日
起きろヒデヨシ
ドンドン
デカ手の見世物に行くぞっ
それがよーっ


ホラ
あっ もどってる
そーなのよ 起きたら 腫れがひいてたのよ
しょーが ねえなあ
それより ネンネン 見に行こうぜ
おっ
お〜い パンツーッ 手はどうしたーっ
朝起きたら 元になってたぞォ
よっ ヒデ丸
粘土のパンツ君が 動くんですか? ワクワクしますね
すおーっと
!


なにやってんだ?
凄い
ホントに動いてる
いったいなにを作ってるんでしょう?
あの型
蜂の巣に似てるな
そういえばそうだな…
おーーっ


ネンネン元気かーっ
へーっ
これがヒデヨシ君が作った!!
あらん
ホレホレ
おっ マネしてますよ
ネンネンは踊ってばかりだなあ
ヒデヨシが作っただけあって乗りがイイゼ


フーム
あれ
ヤニヤニ
中に入ったのかい
ヤニヤニ？
ヤニ・パンツが
作ったからって
ヒデヨシが
つけたんだ
ヤニヤニか
では
実験して
みよう
実験？
しーん
フーム



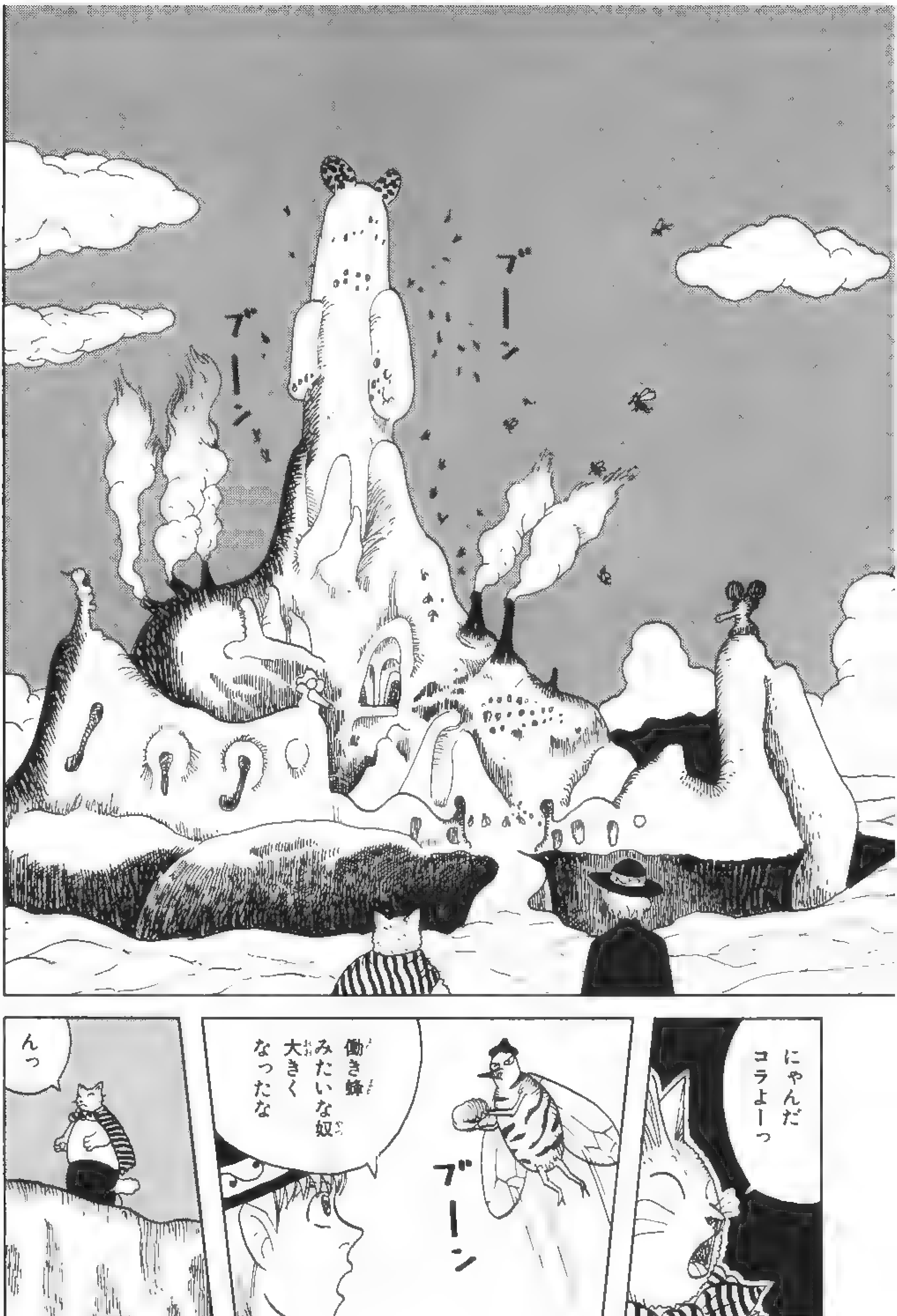
興味はあるようだが本に手は出さないなあ…
まあ…いいや
ここに置いててみよう
けっきょくヤニヤニは巣の中でジッとしてて
ネンネンは踊ってばかり
でもアイツと踊ってると楽しいのよーっ
翌日
すお〜っと
んっ
!


・・・
なんだアレは!?
変なもの作ったなあ
なんかめいわくそうな顔してますね
ちょっとヤニヤニ
なんなのコレ
……
トン
シュ――ッ
ぐっ

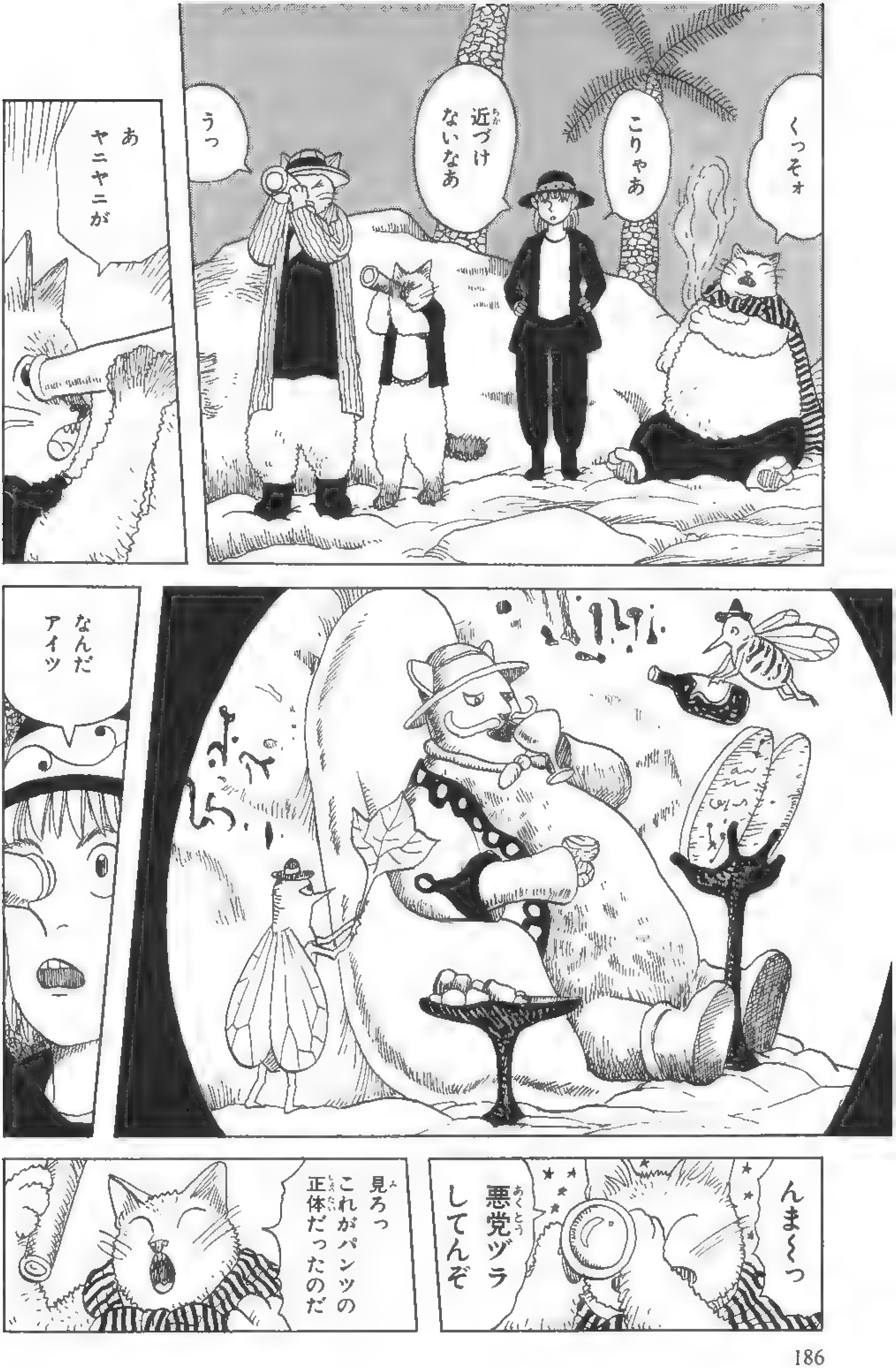

シルル
シルル
ペタッ
ニュル
ら
なんだ
これはっ
トッ
トッ
おおっ
これは
凄い
蜂っぽいけど
蜂じゃないね


本は読んだのかな？
えっ
トコトコ
ペタン
尻尾で文章をなぞってるぞ
尻尾で頁めくって…


凄いっ
字書いてる
あいつ オレが考えて解けてないことを書いている
それどころじゃない…
えっ？
えっ
パンツ君より優秀!?
ああ
謎の蜂の能力が混じってる…
翌日
ん
あっ


ブーン
ブーン
にゃんだ コラよーっ
働き蜂みたいな奴 大きく なったな
ブーン
んっ


ピーーッ
コレ以上 近ヅクコト禁ジル!!
早刻タチ去レ でぶネコ
ぬわんだとォ
てんめ〜〜っ 器械のくせにっ
おまえなんかに用はないっ
オレはネンネンに会いに来たのさーっ
ドス ドス
侵入者アリ 警告無視
プチノメス
ドン
んぎゃ
ボフッ


くっそォ
こりゃあ
近づけないなあ
うっ
あ ヤニヤニが
なんだアイツ
んまくっ
悪党ヅラしてんぞ
見ろっ これがパンツの正体だったのだ


なに言ってんだよ
おっ ネンネン発見
2日後
まるで
蜂の軍隊だな
「ヤニヤニ王国」って書いてあるぞ
せっせと働いているけど
よく見ていると
ひどく働いてる赤帽子の連中と
それをこき使ってる青い帽子組がいるぞ
それにしてもあの連中


なに作ってるんだろう
先端が栗みたいだな
てっぺんでネンネンが踊ってるぞ
翌日
フフッ
なにやってんだよ
ネンネン踊り
いーから前に進みな
んっ


ブルルル
森ノ住民ニ告グ
我々やにやに王国ニ食物ヲ献上スベシ
明日ノ正午マデねんどん林ニ大量ニ持参セヨ
量ガ少ナケレバ森ニ栗爆弾ヲ投下スル
なんだアリャ？
なんだとっ
コレハ脅シデハナイ
小サイ栗ヲ味ワイタマエ
ビッ


うわっ
にゃっ
凄い破壊力だ
くっそう
悪党粘土ヤニヤニめえ
森の食い物を持って来いだと〜〜〜
ゆるさん
森の食い物はみーんなオレのもんなのよう
ヤニヤニぶちのめすーーっ


おっ
大変だぞ
どうした
ハナブン
中の様子が
変なんだ
ボン
ドドンッ
ブーン
にゃ？
ありゃ
赤帽組と
青帽組が
戦ってるぞ
こりゃあ
仲間割れ
内乱だな
内乱？
ひどく
働かされてた
赤帽組が
ブチ切れたんだ


あそこに抗議文が書いてある
「青帽一派とヤニヤニ大王に天誅を」
赤帽が押してる感じだな
ありゃネンネンがあんな所で踊ってる
ドッ
ドッ
ヤニヤニはどこにいるんだ
あっ いた
ボッ
ドッ
追いつめられてるぞ
ドド
あいつなに持ってんだ
!
ドド
ドド



ア゛
ぐひっ
あ——あ
みんな粉々だ
おーいっ ネンネーン
いくら優秀でも爆発して終わりか…
んっ
ニャンニャカニャン ♪
瓦礫の山を作りに来たんじゃなーいー
オレたちゃこの世に



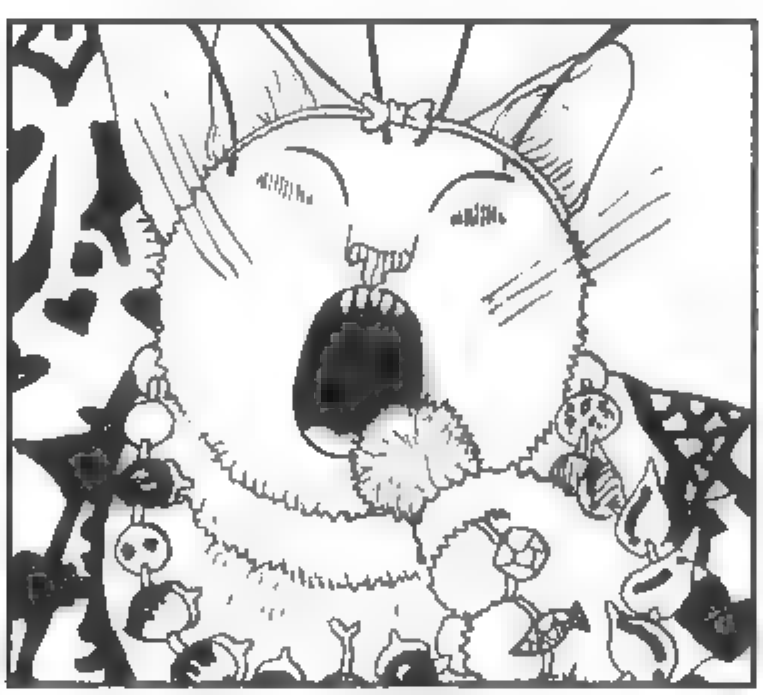
アタゴオルは猫の森⑮ おわり

ますむら・ひろし先生の最新情報は公式サイト

「ごろなお通信」

をご覧ください。
イベントや新刊の情報、日頃の創作活動など
楽しみがいっぱいです。

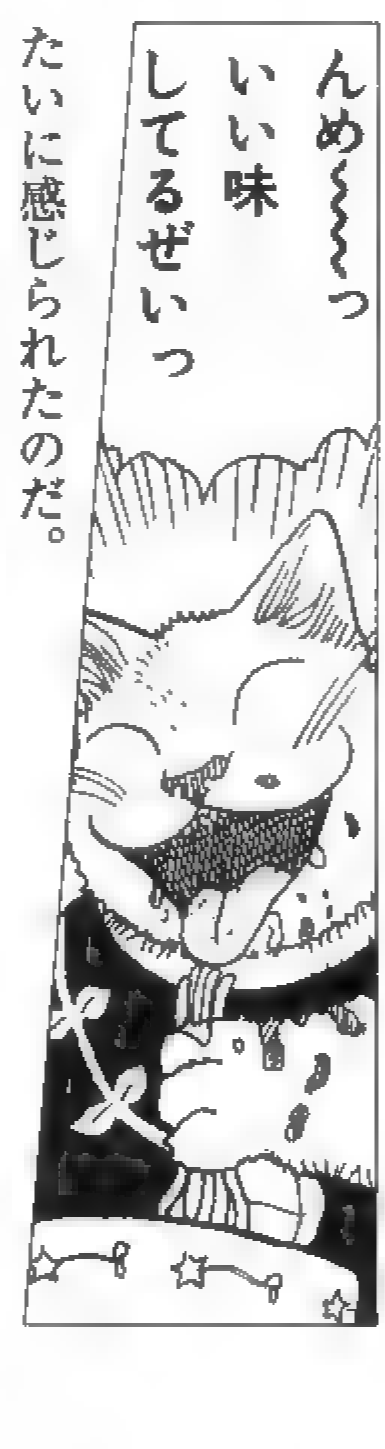
http://www.tiara.cc/˜goronao/



アタゴオル余波15

ますむら・ひろし

ビートルズのリマスター盤を聴いた。いままでのCDでは再生できなかった原音を、数年かかって技術の人たちが蘇らせた新しいCD。さて、どんなもんだいと聴いたら一曲目の「アイ・ソー・ハー・スタンディング・ゼア」の音の生々しさ、まるでスタジオの中で聴いているような凄い鮮度。それに包まれているうち、1965年に中学一年生で聴いたときのような斬新な興奮が湧いてきたのだが、次々と聴いていたら、「ナルホド、当時の中学校では、こうした曲が放送禁止になったのは、一理あるな」などという、変な納得感が湧いてきた自分に驚いた。ゴロスタと呼んでいる我が家のスタジオで爆音で聴いたビートルズには、若さが持っている生命力のパワーが爆発しているのがヒシヒシと感じられた。ジッとしていられない、何かブチ壊したくなるような、ひたすら飛び跳ねていたいような、そういう中学生や高校生の意識。そうしたエネルギーが四人の音の中にギッシリあり、それが今の自分にとって、一種の恐ろしさみ



たいに感じられたのだ。

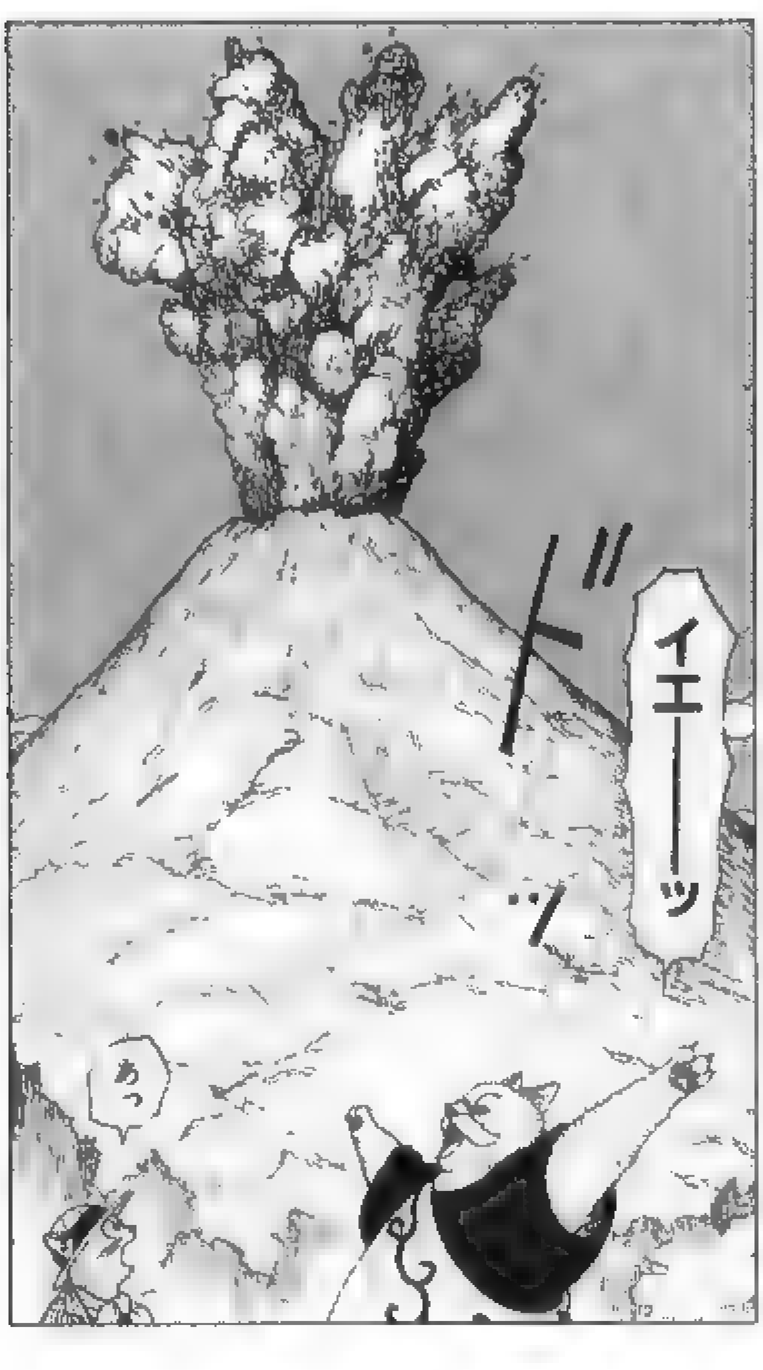
なんてことだ。この感覚…。そうです。私の中に、老人感覚が発芽してきているのだ。当時の多くの大人たちが、ビートルズの音に「何だ、この騒音は」と激怒し、小中学校で放送禁止にしたのは、そんな爺たちの胸を苦しくするほどの、若い生命力のパワーが、実は怖かったのだ。もちろん、当の大人たちはほとんど気づいていないが、無意識のなかでは、シッカリ恐怖していたのだ。まあ私の中で気づいた恐怖は、一瞬のものだったが、それはまさに自分がドンドン老化していることの現れでもあり、これもまた命の流れなのだろう。そんなことを感じながら、二日で一通り聴いてみたが、結成から解散までのドラマを見ているようで、何度眺めても飽きることないビートルズと、あんな風に時間を過ごせたのは、シアワセであります。

最近ビートルズについての文章依頼があり、自分の体験年代記を思い出しているうち、いろんなことを思い出した

が、高校時代、ビートルズの新曲が初めて流れるのは、ほとんど深夜放送だった。そんなある日、学校で「増村、あのよ、昨日ビートルズの新曲流れたから、テープに録ったぞ」と言ったのが学友の小林孝一くん。「なにっ、新曲」。もう午後の授業なんか、受けてられません。私早引きします、と一人学校を出て、まっすぐ小林くんの下宿に直行。玄関から入ると大家さんがいるので　奴の部屋の窓から入って、どれどれとカセットをオン。「おお、しぶい、かっこいい」、それが「ゲットバック」だった。「ジョンとヨーコのバラード」も、小林が録ったのを最初に聴いて、発売日に買ったのだった。懐かしいのー。

ＣＣＲの名曲「アップ・アラウンド・ザ・ベンド」を今聞いても、思い出す風景がある。それは朝の米沢・上杉公園のお堀だ。小林の下宿で、徹夜で期末テストの一夜漬け勉強をやり、明るくなってきた空を見て、近くのお堀端に行き、この曲をガンガンかけて気分転換していたのだ。それ以降、この曲を聞くと上杉公園の朝が浮かぶ。ずいぶん時が経ち十数年前のことだ。娘が通う塾の前で、帰りを待つために、止めて待っている車の中、この曲が流れたとき、お堀で聞いていた自分と今の自分の時間の流れを感じ、実に不思議な気分になったものじゃ。思い出話ばかりしていると爺さんになりますので、収録作品について、少々。

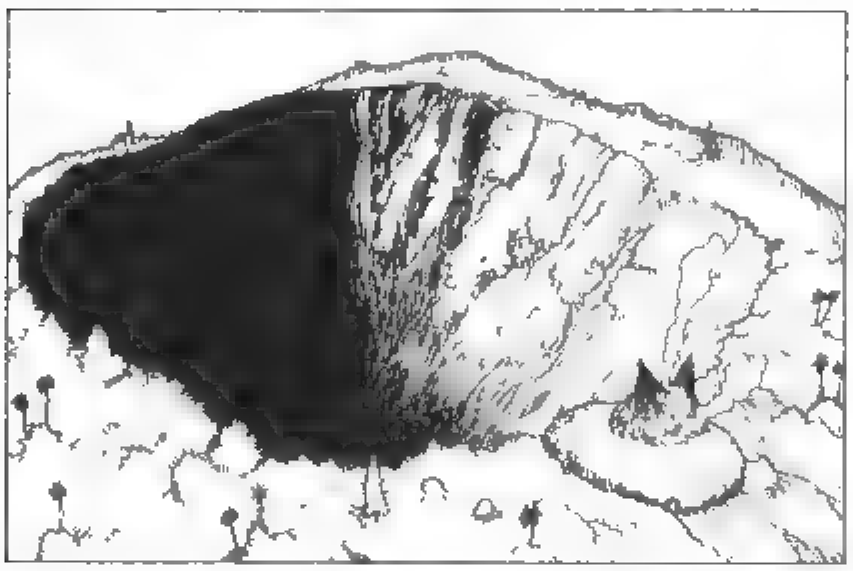
『ミンミン・フミンミン』。火山は、地球の活動の一部であり、火山のおかげでワタシラは、大好きな温泉にも入れるのだ。当然のように古代の民は火山を恐れ、恐怖と尊敬をもって接していた。とおおおころが、現代の人間たちは、科学への過剰な自信などで、「火山様」に対して恐れ多くも敵対心めいた態度でいるのは、実に嘆かわしい。とてもあたりまえなことは、火山に近づいてはナラナイのだ。火山のそばに家を建てたら、ぶっ壊される覚悟はしなくてはな





らないし、火山島に住んでいたら、いつ噴火して焼かれたりすることも想定しなくてはならない。以上、火山教ゴロニャン支部からの広報でした。私は小学生で感動して以来、今でも火山が大好きだ。相変わらず噴火のニュースや画像を見ると、スミレ博士のように興奮してしまう。そして「噴けええ、もおおっと噴けええ」と、叫んだりする。

かつて木曽御岳は、死火山と呼ばれていた。有史以来、噴火の記録がなく、そうした火山を火山学では「死火山」と呼んでいたのだが、これが七十年代に噴火した。私もビックリした。それ以降、「死火山」という名称は、安全性の意味からも問題があるとなり、学術的には、噴火の記録がなくても「休火山」ということになった。今回の物語は、



私の火山小僧時代の名残として、死火山という言葉でいろいろと夢想してみたのだが、この物語を描く原因は、冬にあった友だちの自殺だ。数年前にも、故郷の友だちが自殺した。自分で命を絶つというところまで追い込まれたその心情が、どれほど辛いものか、考えただけで胸が沈んでくる。知り合いたちが、病気や事故で亡くなっていくのに出会うのは、生きていれば避けられないことだが、自ら死を選ぶということに出会うと、慄然としてしまう。残された家族の苦しみは、ほんとうに計り知れない。そして周りの者は、何とか止めることができなかったのかと、鉛のようなものを呑まされた気分になる。

いろんな形で人は死んでいく。しかし日本という国は、なにか責任をとろうとして自殺することに対し、一種の「美学」や変な「許し」があると思う。それは日本民族が持っている無意識のようなもので、武士道精神から生まれたものか、さだかではないが、不思議な許容感覚があるような気がする。でも、自殺は、いけないし、そうした行為をヤッパリ認めてはいけないのだ。どんなにつらくても、死んだりしてはイケナイのだ。自殺というものにたいしての、日本的

な許しのような意識を　なんとかして変えていかなくてはならないと思う。



　この作品の三回目の表紙で、ヒデヨシはキヨシローの格好でジャンプしている。２００９年5月2日、忌野清志郎さんが亡くなった。一度もライブも観たことないけど、エッセイ本は数冊持っていて、その活動はズッと気になっていた。彼はどれほど生きていたかったろう。まだまだ生きていたかったはずだ。その無念さを思いつつ、青山葬儀場の列に並んだ。四万人の人たちが何時間もならんで、彼の死を悼んだ。体が消えても彼の残した歌は、これからも生き続ける。そういう意味ではキヨシローは不滅の生を走り続けるのだ。それにしても、すべての人に、死の時刻は訪れる。そして、そのとき、何を想うのか。自分はどんな風に想うのか。目を逸らさずに、たまにはボンヤリと眺めなくてはならない。

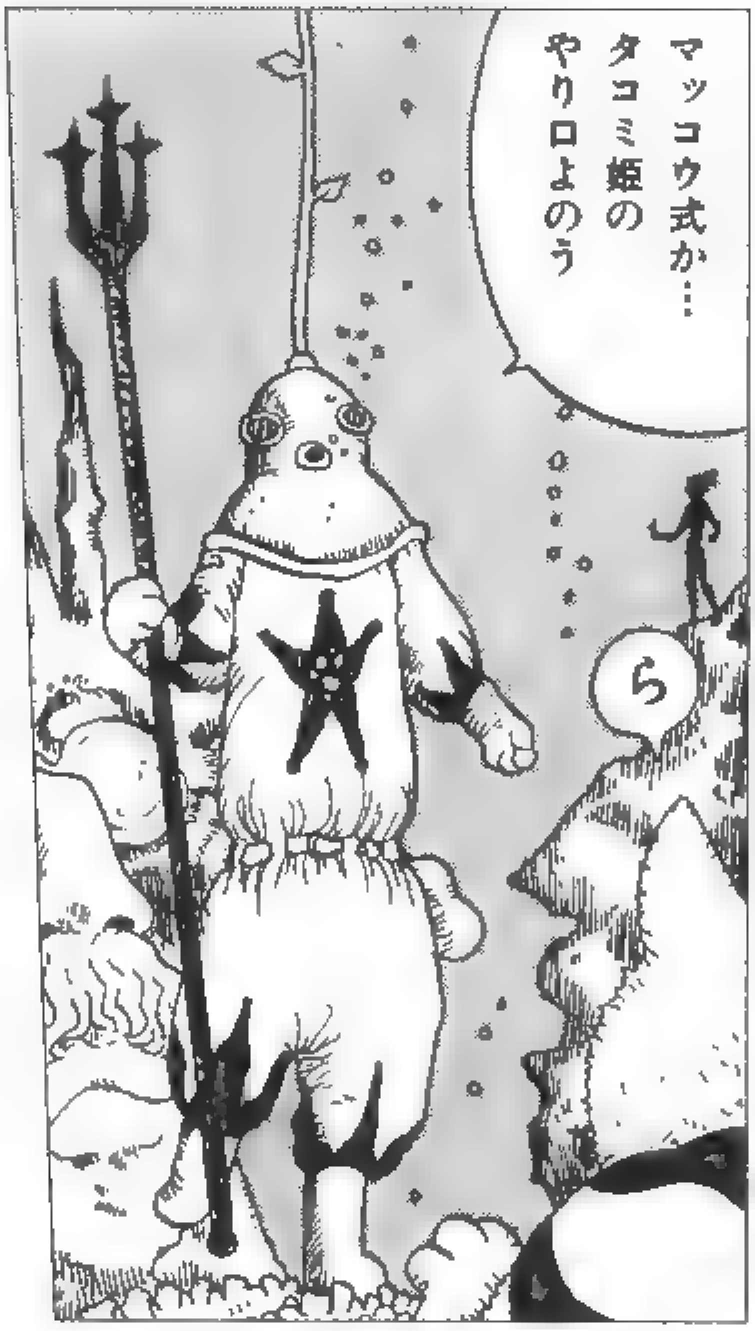
『暑イノヨオ』。故郷の山形県米沢市は、夏は暑い。盆地のせいなのか兎に角蒸し暑い。昔はクーラーなんてなかったし、扇風機だって茶の間にしかなかったから、ムワーッとしたもんで寝られたもんじゃない。私はひとり二階の部屋に蚊帳をつって、窓を開けて寝るのだったが、酷い夜はとても寝られない。クーラーが登場しても、漫画描き出したあたりは、そんなもん高価で手に入らないから、夏場はジッとしても汗が出て、頭はボーッとして、描けるものではない。昔の文豪が軽井沢に別荘持って、夏場はそこで書いていたというのは当然だと思う。私の場合結婚したらクーラーが花嫁道具としてやってきたので、それ以来、夏の暑いなかでの原稿描きは、相当楽にはなった。

　それでも、とに



かく夏は暑くてタマラン。というわけで、毎年アタゴオルの夏は、「暑いよー」で始まり、涼しさを求めてしまう。ほんとうに涼しい場所は、深い森のなかにあるのだろうが、その涼しさの正体はたぶん、森の奥の深淵を覗かないとわからないし、覗くためには、特別な瞳を手に入れなくてはならない。

『海ノ王様』。夢をモチーフにしたシリーズ。テンプラやパンツの夢は描いたが、ヒデヨシはどんな夢を見るのだろうと想像してみたのだが、これがなかなか難しい。何度かラフを描いたりしたのだが、ヨシこれで行くべとはならずにいたが、今回なんとか描いてみた。「しつこいんだよ、



おまえ」というセリフで始まる見開き。昭和新山的な小型火山と、背景の波。次に現れる見開きは、蛸の園のバル。「ぷじょうぷぷ」「ぷしぷしゅる」という蛸語を書いたら、急にFCバルセロナのカピタンの名前「プジョール」選手が連想され、ついスカーフに印入れた。タコミ姫のあとには、夢の時間には常連的登場の潜水夫。まったく夢というものは、知らない奴が出てきて普通に話したりする。こいつの正体は、誰なんだろう。そしてギルバルス登場。しかし、なんとも情けないギルバルス。なんで夢の中のギルバルスは、普段の勇ましさがないのだろう。ヒデヨシの前で土下座している。これはヒデヨシの夢というより、ヒデヨシの一種の願いのようなものだろう。ギルバルスより偉くなりたいという願望、しかしその題材が「ギルバルスに窃盗させる」程度のところが、なんとも情



けない。しかし、このページの先でギルバルスは着物を着ている姿で現れるが、なかなか似合っている。「よーいわなー、せっちゃ」で始まるのは、西馬音内（にしもない）盆踊り。秋田県湯沢市の西、羽後町で毎年夏にある盆踊り。そこでは、破縫いと呼ばれる、布を集めて縫った着物を着



て、「ひこさ頭巾」というお面のような布で顔を隠して踊るのだ。だがギルバルスやカツラの着物の模様は、バルサ的エンブレム。そして歌は「武楽乱鍋」「雲栗晴」…。この原曲を聴きたければ、バルセロナのスタジアム・カンプノウに行かなくてはならない。「イムノ」と呼ばれるバルサの応援歌。ヒデヨシの夢の話なのに、まるで私の夢の混沌汁のようです。そして最後の見開き。ギルバルスは踊りの形、左には昭和新山観察者三松正夫翁のポーズで誰かが卵蒸している。その後方には有珠山、右に小さく昭和新山。こうやって描いてみると、アタゴオルというもの自体、私が見る現実の夢なのだと、感じます。

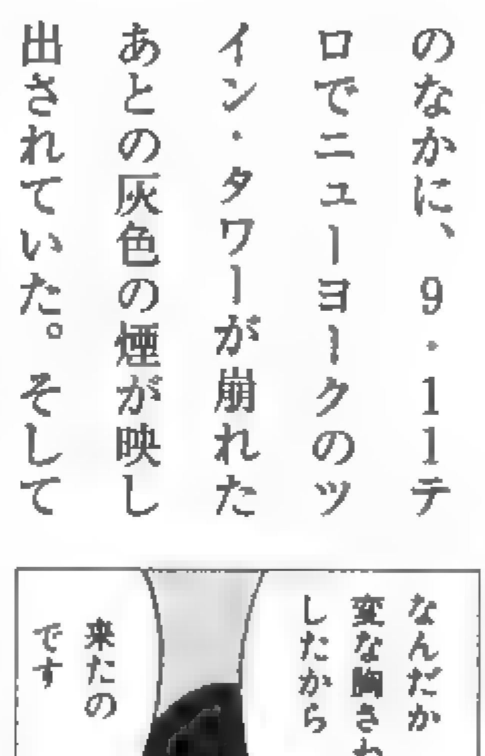
『ネンドン』。粘土をこねていると、気持ちがいい。かつて米沢の成島で、陶芸家にして興譲館（こうじょうかん）高校の大先輩である水野哲氏宅に三日も泊まりこんで、火炎土器を作った。あの時でも味わったが、粘土をこねているうちに、無心になってくる。集中するのだが、どうも絵を



描いている時とは違う神経を使っていて、その回路が働いているときに、普段働いている「日々使っている神経」が、切れるのだと思う。それが気持ちいいのだ。まるで子供の時に粘土にはまったときのような、そんな気分に包まれる。

蜂の巣の変な形を図録で見ているうち、蜂の能力をいろいろと夢想して、この話になった。だが粘土で作ったネンネンやヤニヤニが動き出して、それからどうするか。そのとき、昔読んでショックを受けた漫画の短編が浮かんできた。それは水木しげるさんの名作「宇宙虫」。おかしな虫が池の中の島で急速に文明を進化させるというもので、その面白さが頭のなかにズーッと残っていたのだ。ネンネンには無理だが、パンツの作ったヤニヤニなら、パンツ以上の能力を発揮すれば、文明進化もできるだろうと、そんなことを思いつつ描いた。最近見たテレビ番組で、地球の上に浮かんでいる宇宙ステーションからの動画のなかに、9・11テロでニューヨークのツイン・タワーが崩れたあとの灰色の煙が映し出されていた。そしてその報復としてのアフガニスタンの闇が爆弾でキラキラと輝くのも。宇宙からの視線で地球を眺めると、今の文明はいまだに瓦礫を作ってしまうのをやめない。そうした瓦礫作りの呪縛の外で、ネンネンと一緒に、踊るのだ。生きているということは、それ自体が、踊ることなのだ。粘土をこね回していた時間に、誰もが自分のなかのネンネンと踊っていたのだ。それを忘れない者たちに、幸あれ。







（初出）コミックフラッパー 2009年5月号～2009年12月号

MFコミックス
アタゴオルは猫の森………………15

2010年 1 月31日 初版第1刷発行

著者………………ますむら・ひろし

発行人……………伊藤 誠

発行所……………株式会社メディアファクトリー
〒104-0061 東京都中央区銀座8-4-17
TEL 0570-002-001 03-5469-4760(編集)

印刷・製本…………大日本印刷株式会社

ISBN978-4-8401-2968-8 C9979




宮沢賢治学会・イーハトーブ賞に輝く
ますむら・ひろしの集大成　全作品収録！
賢治の
足音が、
息吹が聞こえる……
メディアファクトリー刊
MFコミックス
絶賛
発売中
定価各750円（税込）


MEDIA FACTORY
ますむら・ひろしのファンタジーワールド
MF文庫
『アタゴオル』
全⑩巻+外伝 ①「ギルドマ」 ②「ヨネザアド物語」
定価各620円（ヨネザアド物語のみ650円）
ファンタジーロマンの最高峰、
『アタゴオル』。20年以上に及ぶ
ヒデヨシの活躍をまとめて
お届けします。
アタゴオル 1
ますむら・ひろし
いずれも
著者書き下ろしの
作品解説付き
MF文庫
『夢降る
ラビット・タウン』
全⑤巻 定価各620円
くいしんぼウサギのポンペイ、
天文少年の辺太、
ゆがんだ性格の
骨男・骨平太、
通信講座会報誌に
掲載された
幻の名作です。
アタゴオルは猫の森 1
ますむら・ひろし
MFコミックス・フラッパーシリーズ
『アタゴオルは猫の森』
①～⑮巻 定価各540円
傍若無人な猫、ヒデヨシと
その仲間達がおくる、
不思議世界、"アタゴオル"
その最新作登場！
※MF文庫『アタゴオル』には収録されていません。
夢降るラビット・タウン 1
ますむら・ひろし
※定価はすべて
本体+税5%です。